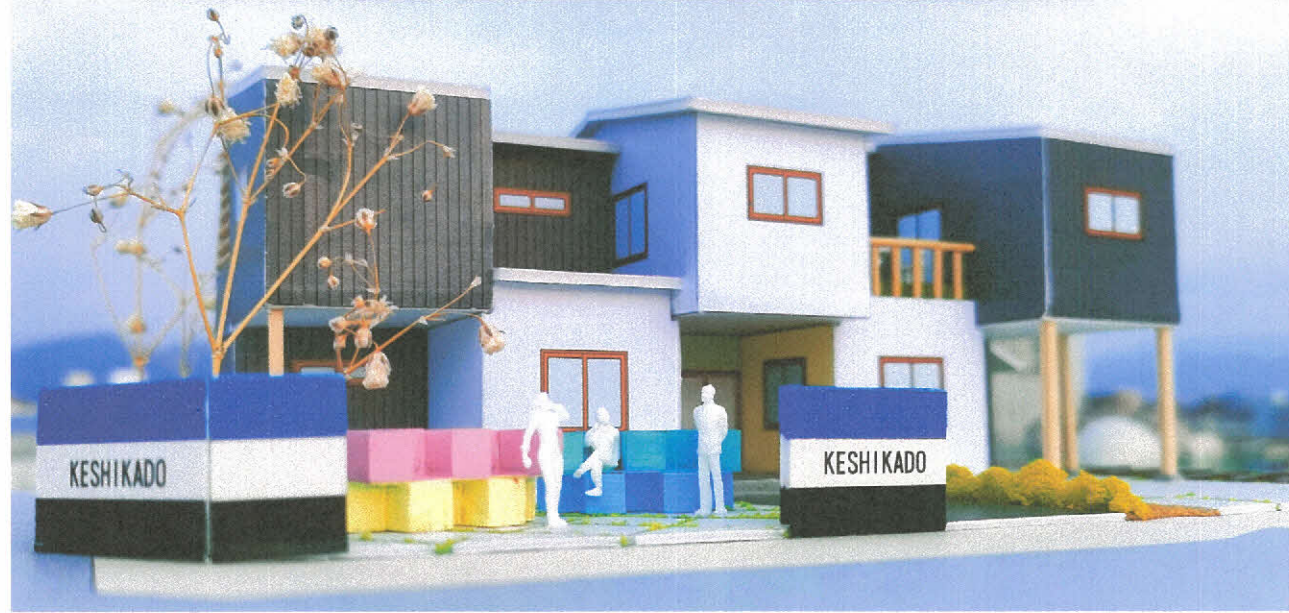


# ケシカド

～道後郵便局との協業～



## 1. 設計主旨

店主は消しゴムはんこを作ることが好きだ。消しゴムはんこは日本発の文化であり、最近では海外からも注目を集めている。店主は愛してやまない消しゴムはんこ作りをたくさんの方に体験してもらいたいと思い、消しゴムはんこ専門店「ケシカド」を開いた。

「ケシカド」は消しゴムはんこを買う・捺す・作る・注文する店。販売されているはんこは全て店主と従業員の手作りである。道後に訪れる外国人観光客のみなさんにも和のはんこや日本のアニメのはんこなどを楽しんでもらいたい。道後のアーケードから熟田津の道へ入るとカドに行む店舗。その大きな消しゴム型の店内であなかも消しゴムはんこの世界に浸ってみませんか。

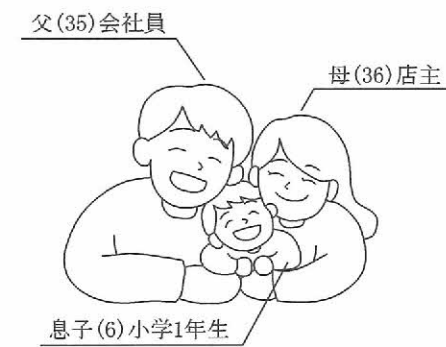
## 2. 道後郵便局との協業



建設予定地は道後 熟田津の道。にぎやかな道後のアーケードを逸れりと真つすぐ西に続く閑静な道。

店の向かいに建っているのは道後郵便局。作ったはんこをハガキに捺して郵便局に持って行き、すぐに送ることができる。故郷の家族に送るもよし。旅の思い出として自分に送るもよし。

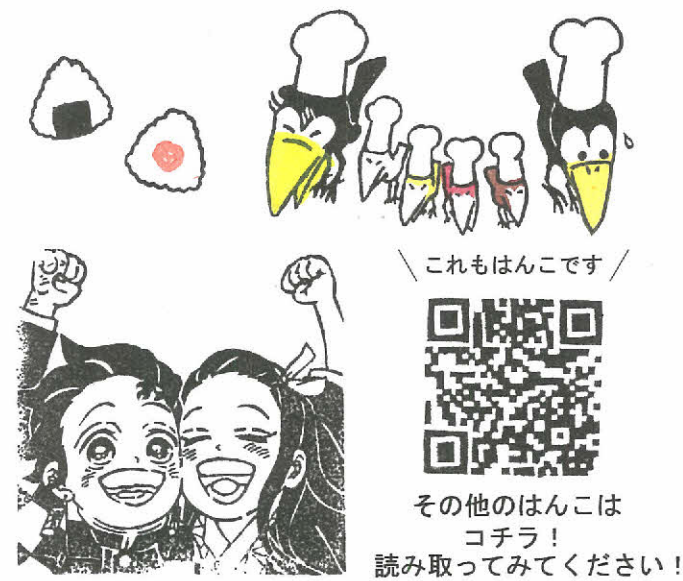
## 3. 家族構成



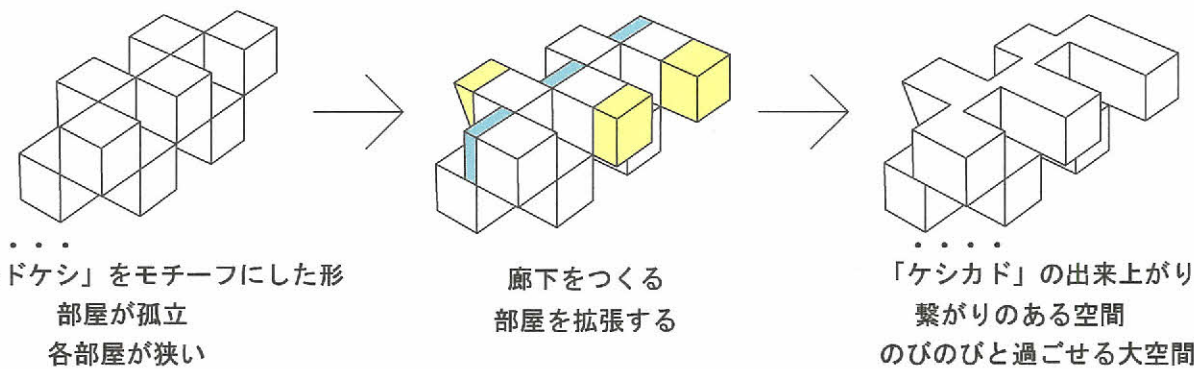
## 4. お店での過ごし方

- 買う 店主・従業員手作りのたくさんのはんこが販売スペースに並んでいる。
- 捺す 販売スペースで気になったはんこは購入前にお試しで捺すことができる。
- 作る 店員指導のもと体験スペースにて世界にひとつだけのはんこ作りができる。
- 注文する 好きな図案を受付に提示すると店員が特注はんこを作る。出来上がりを待つ間に道後観光などができる。受付13:00まで。1日5組限定。

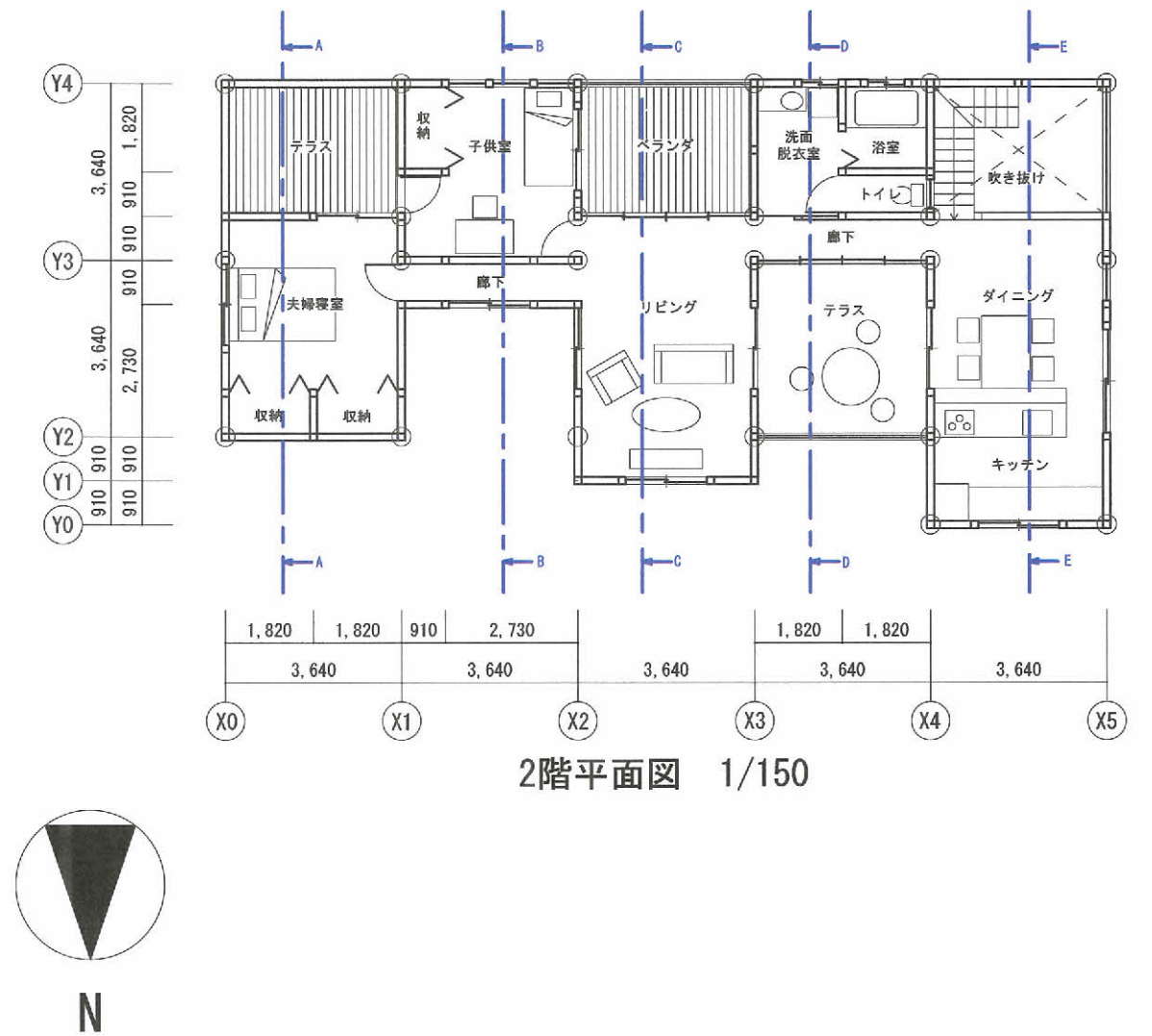
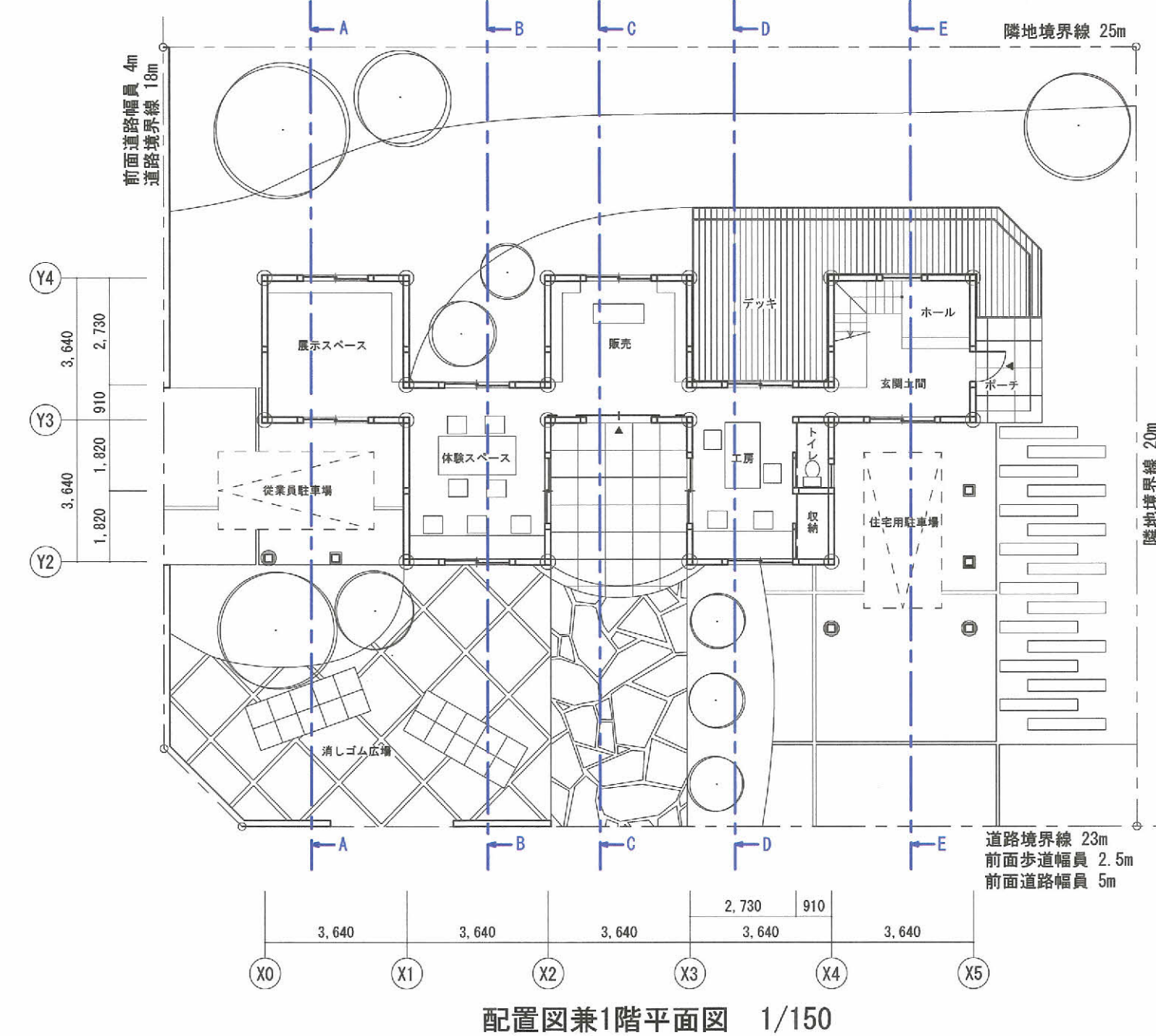
## 5. 商品ラインナップ 一例



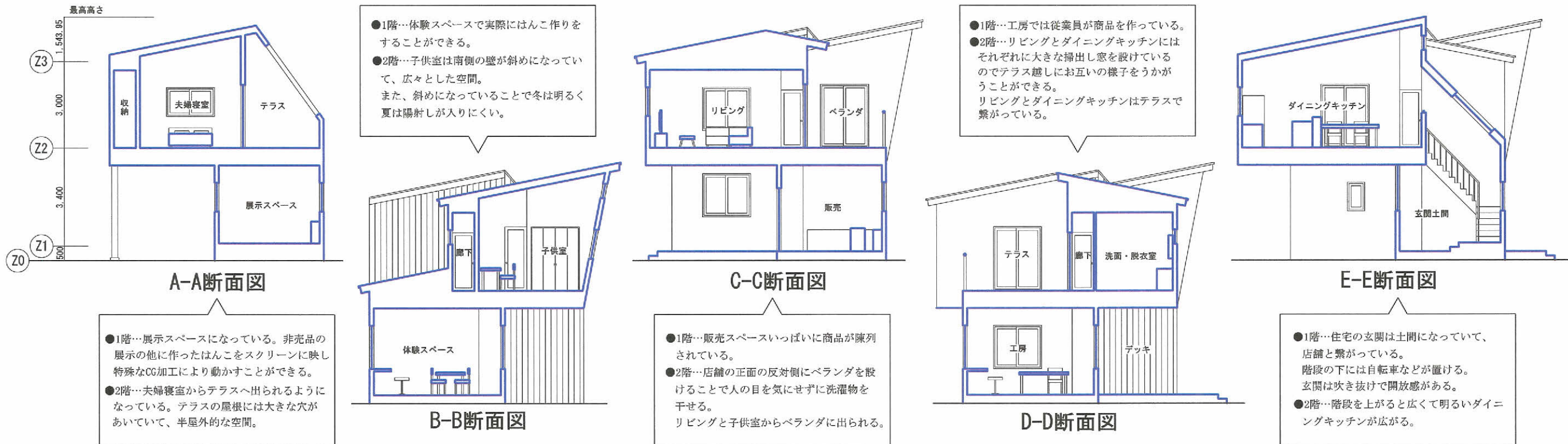
## 6. ダイアグラム



## 7. 平面図・配置図



## 8. 断面図



## 9. 立面図



## 10. 建物イメージ



# はたごや 旅籠屋ほたるかご

～地域資源を生かしたインバウンド活動～



53番札所となる寺院の円明寺と54番札所となる寺院の延命寺の距離が離れているため、お遍路さんは長距離歩くことになる。なので、53番と54番をつなぐ位置に建てることにした。周りには道の駅風早の郷「風和里」や海に囲まれており、自然豊かである。

## ● 蛍籠とは

昔はその名の通り、実際に蛍を入れて愛でたり、鈴虫やコオロギなどの鳴く虫を入れて室内で虫の音を楽しむために使用していた物だ。かつて農村などで作られ、ホタルを入れてその光を楽しむ虫かごだったが現在はのホタルは入れず、昔ながらの風情を楽しんでもらおうと取り付けているということが今の使われ方である。

蛍をとらえたら、上方に開けた入れ口から蛍を中へ。たくさんの蛍が入ったかごは、蛍の緑色の光がつゆ草に透けて幻想的。蛍狩りの帰りには、蛍をもとの川原に放ちましょう。あちらこちら抜け穴だらけの蛍かごは、閉じ込める虫かごではなく、束の間、蛍の光を手元で楽しむものなのだ。

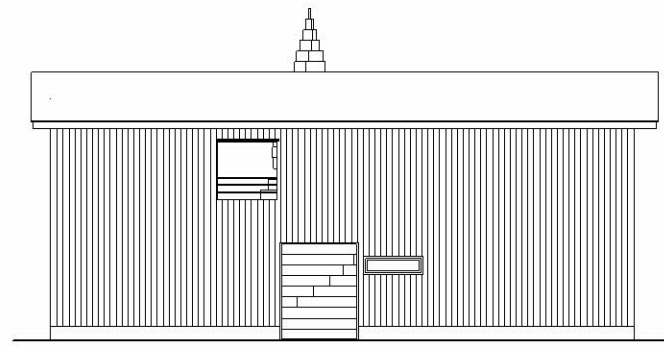
北条で最もほたるが生息している「蛍の里」という川が存在する。川のせせらぎとほたるが舞う幻想的空間をこの店舗でも感じてほしいと思い、ほたると関係の深い蛍籠を用いることにした。

## ● 設計主旨

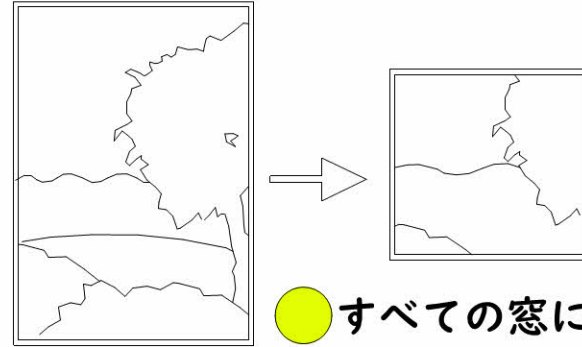
私たちが住む四国では「四国八十八箇所巡り」という文化がある。その霊場を巡る人々を「お遍路さん」、お遍路さんに食べ物やお賽銭を差し出す風習を「お接待」という。コロナ禍が、お遍路さんの減少と「お接待文化」の担い手不足につながった。しかし、ここ数年、2500人前後の訪日客が「歩き遍路」を達成しているというデータがある。四国お遍路がインバウンド観光の目的地として認知されつつあることを示している。この「旅籠屋ほたるかご」により年々増加するインバウンド観光の方々に向けた宿泊施設兼、年々消えてきている「お接待の文化」の継承を考えるデザインを提案する。

## 家族構成

- 父 (40) 漁師 留学生 (20)
- 母 (39) 専業主婦 滞在期間1年：女性
- 娘 (15) 中学生
- 娘 (11) 小学生

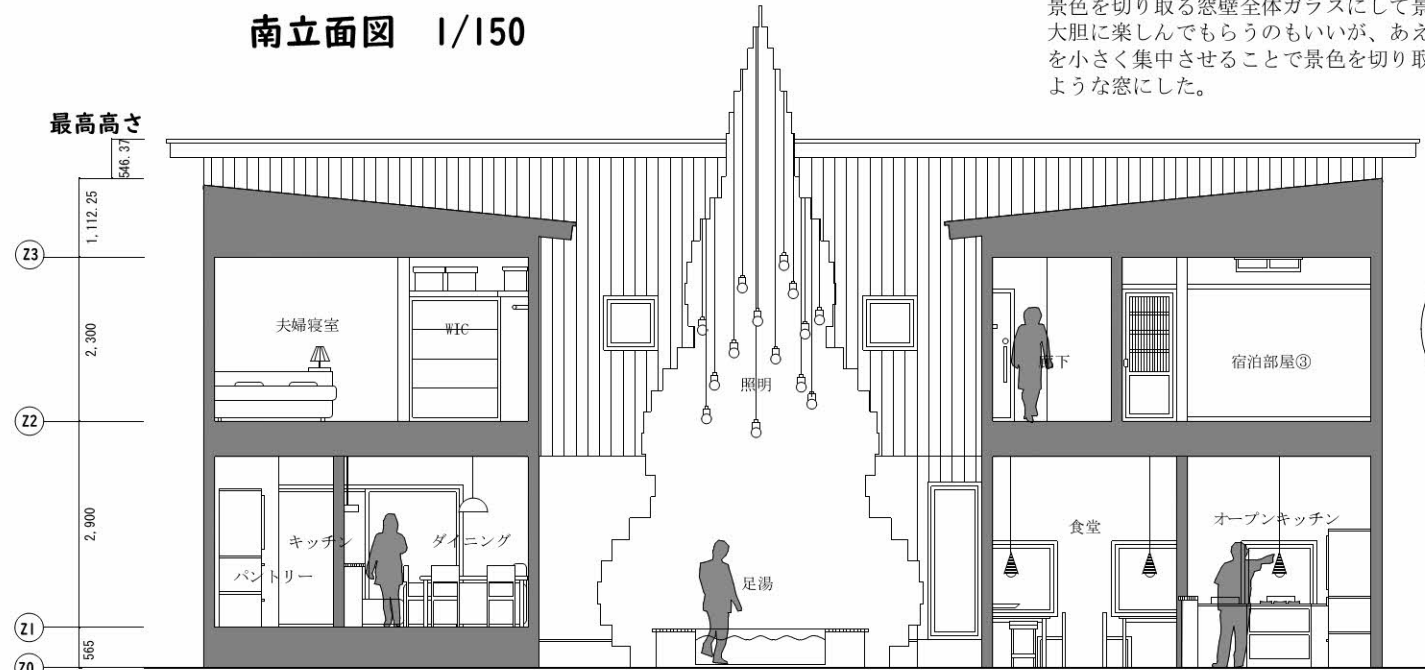


南立面図 1/150



## ● すべての窓に目的を

景色を切り取る窓壁全体ガラスにして景色を大胆に楽しんでもらうのもいいが、あえて窓を小さく集中させることで景色を切り取ったような窓にした。



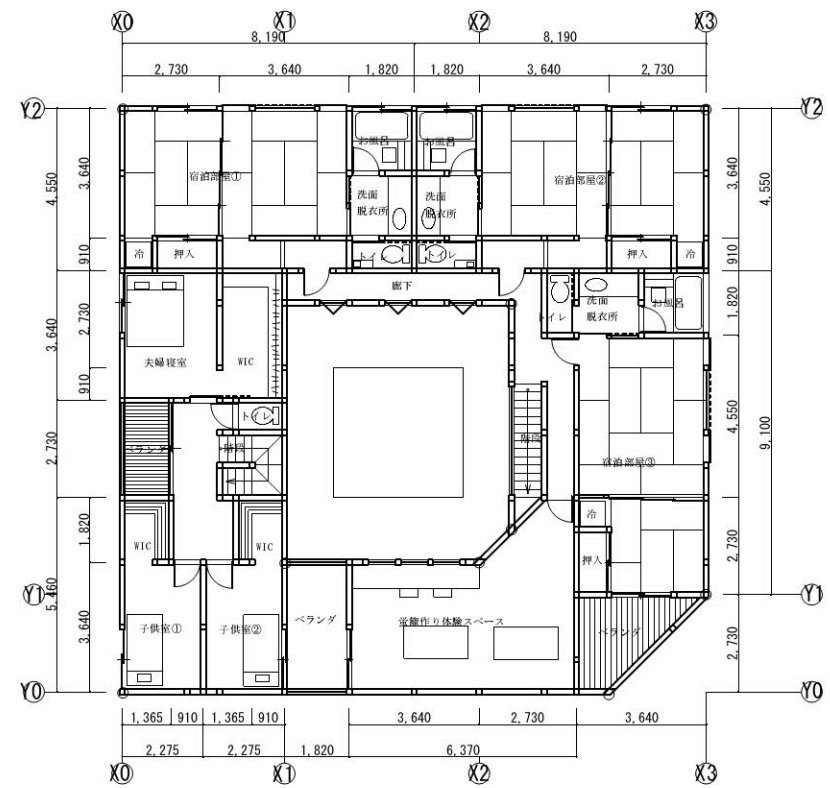
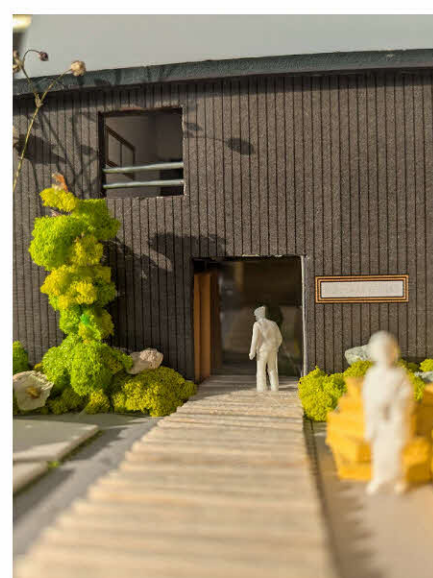
南A-A断面図 1/75



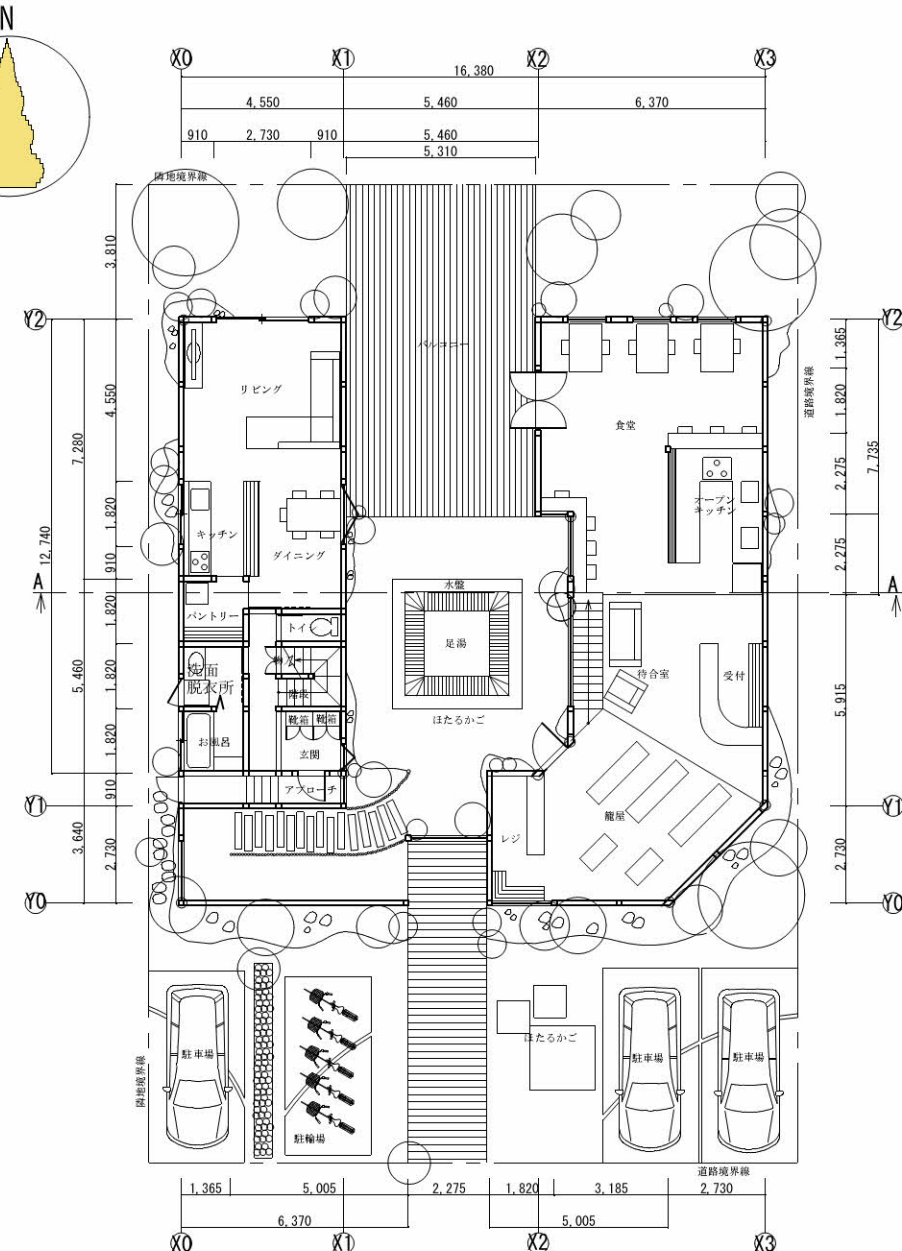
蛍籠の周りには水盤があり蛍籠の中にある蛍を再現し照明が夜になると反射し、より光を感じれるようにするためだ。



1階部分をくりぬくことで奥の景色(瀬戸内海)が見れる。



2階平面図 1/150



配置図兼1階平面図 1/150

ものがたり  
物語とつながる家

がくせいじだい  
『学生時代』

ふじむらしきけんちく きょうかしよ  
～藤村式建築と教科書～

かぞくこうせい  
家族構成

父(40) 本の管理  
母(39) レシピ作り  
娘(10) 小学4年生



●夫婦でカフェ「学生時代」を経営  
●本好きの三人家族

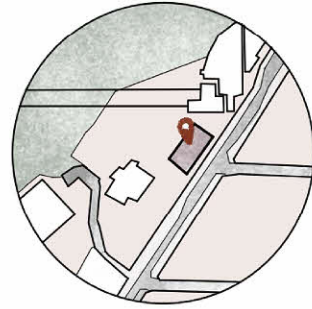


せつけいしゅし  
設計主旨

誰しもに共通する話題とは何だろうか。それは、学生時代に読んだ、こくこの教科書の物語ではないかと思う。この店舗は、こくこの教科書という老若男女問わず楽しめる物語を、擬洋風建築を用いた懐かしの学校の空間で味わうことができるカフェとなっている。

ばしよ  
場所

「学生時代」は、愛媛の文化が集めたロープウェー街の一角にある。ロープウェー街は、観光地として地元住民を含め、全国や海外からの観光客でにぎわっている商店街である。文化と人がつながるこの街に、更につながりを深めるため、物語を通して松山の良さを伝えたい。



A-A断面図

しつない  
室内のこだわり

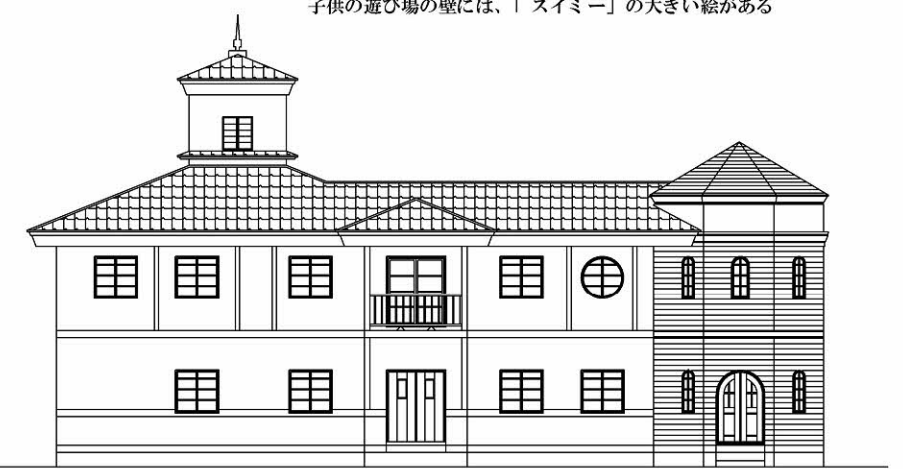
1. 大木の間  
八角形の塔屋には、二階まで届く大木がある。木元にあるベンチに座り、木漏れ日が温かく照らす、まるで絵本の中に入ったような空間で読書を楽しむことができる。
2. 教室  
二階の南側には、明治ごろの教室を再現した空間がある。学生だった頃を懐かしんで読書をするすることができる。

ふじむらしきけんちく  
藤村式建築について

この建物には、藤村式建築の要素をふんだんに取り入れている。

藤村式建築は、藤村紫朗の指導のもとで建てられた擬洋風建築の建築様式である。特徴として、方形屋根、ベランダ、塔があり、小学校建築において洋風化を推進した背景がある。

そして、藤村紫朗は愛媛と関係のある人物だ。明治初期、地方行政官として京都、山梨に赴任して、小学校教育への理解を深めた。その後、愛媛県に転任した藤村は、松山に師範学校などを建てており、愛媛県に擬洋風建築を身近な文化として形成した。



東立面図 1/150

たいころう  
太鼓楼の魅力

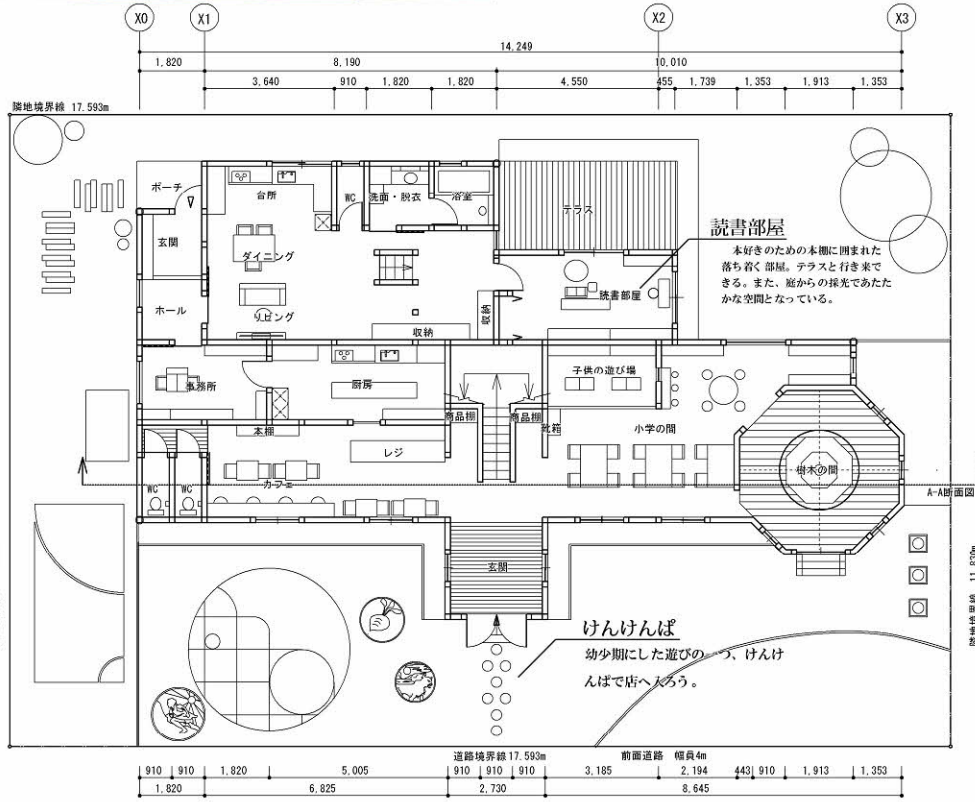
教室の奥にある、階段をのぼり続けると太鼓楼へたどり着く。幼少期に楽しんだ、秘密基地のようなワクワクを感じることができる。太鼓楼の窓から見る松山の景色は心に沁みるものがあるだろう。

えんそう きょうふう  
円窓と擬洋風

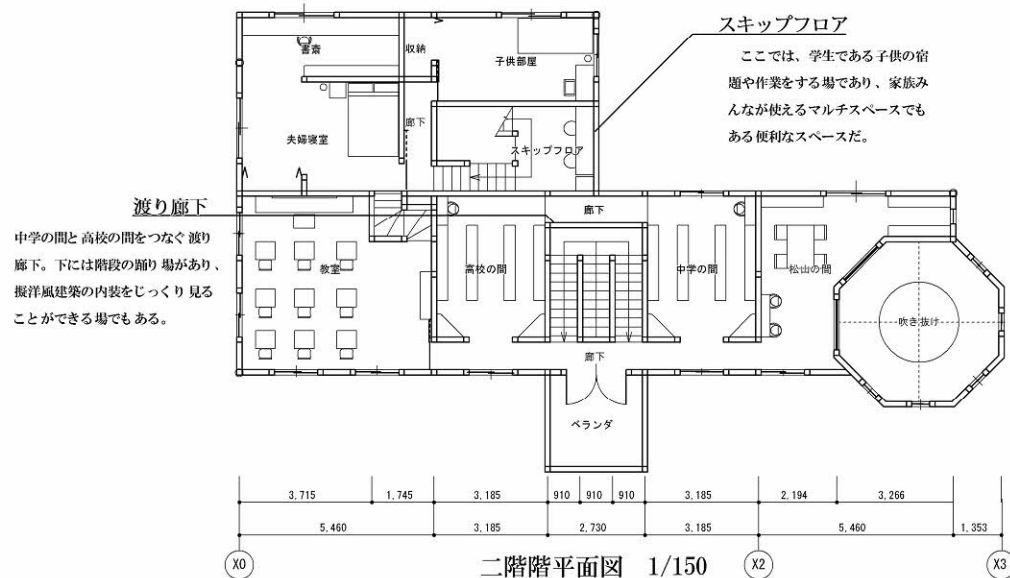
この円窓は、愛媛と馴染みのある夏目漱石が下宿した、愛松亭にもある窓だ。文豪の書籍にふさわしい風情を感じさせる円窓から、松山の風景を眺めることができる。また、擬洋風の様式の中に和を感じさせる円窓を設けることで、アクセントのきいた建物となっている。

ひろば  
ものがたり広場

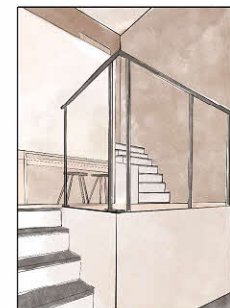
この広場はイベントなどを行う、憩いの場となる場所だ。床に小、中、高校生の国語の教材である、「おおきななぶ」や「走れメロス」、「山月記」のイラストを施した仕様となっている。商店街を歩く人々の足を止め、このカフェに興味を持つきっかけにもなると考える。



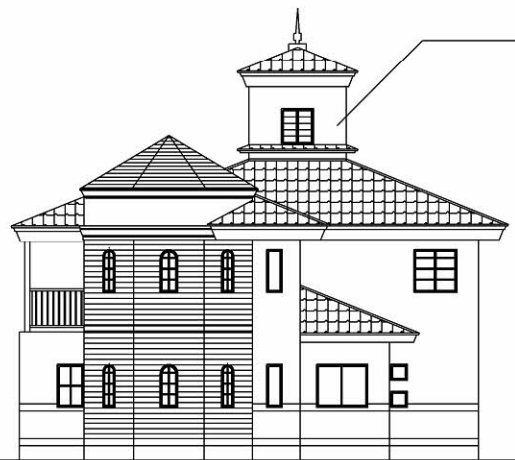
配置図兼一階平面図 1/150



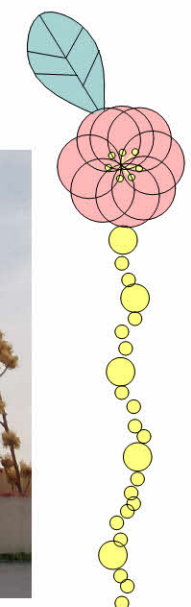
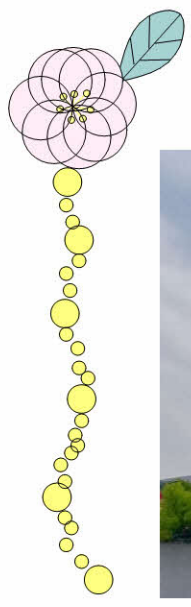
二階階平面図 1/150



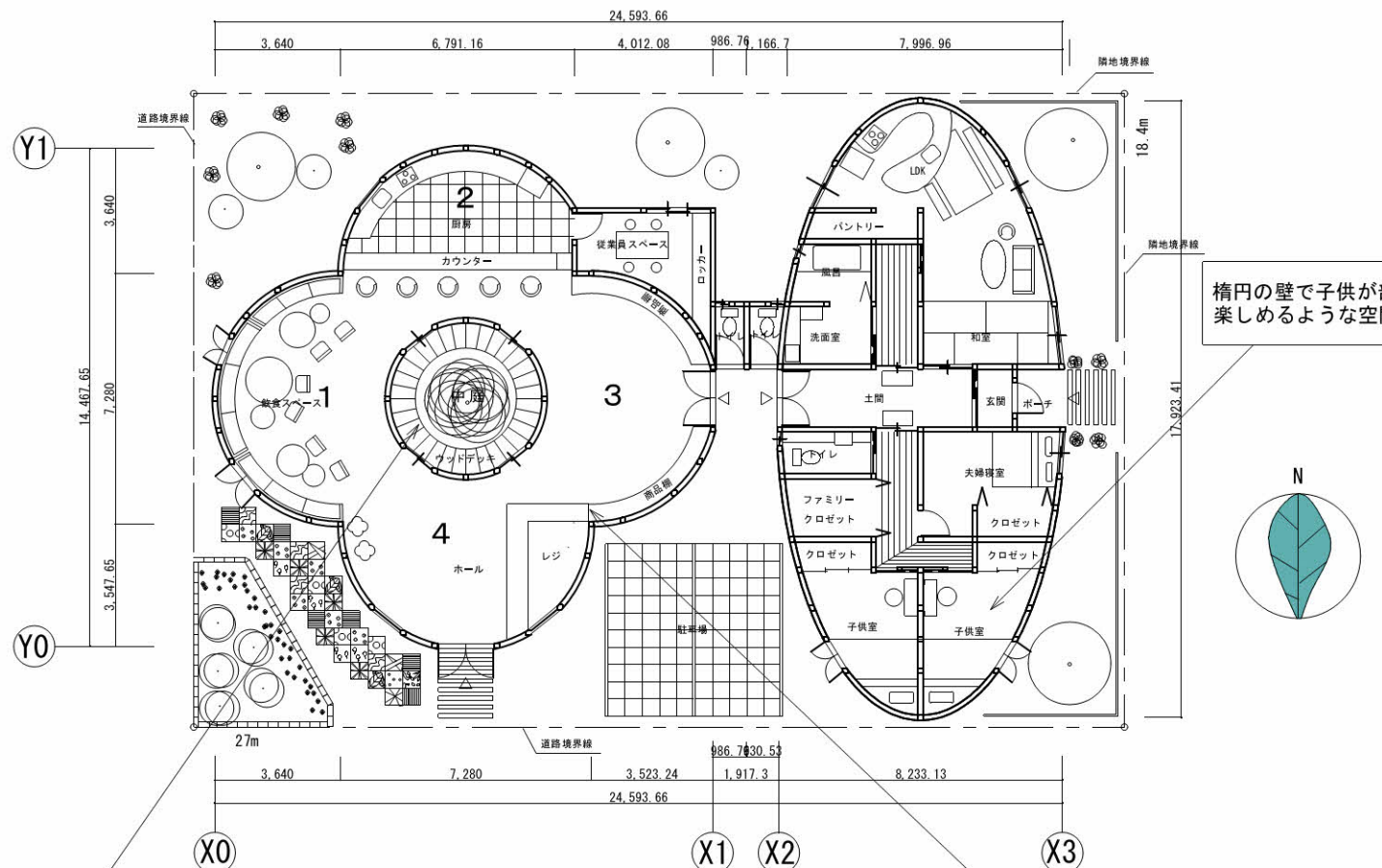
スキップフロア イメージ図



北立面図 1/150

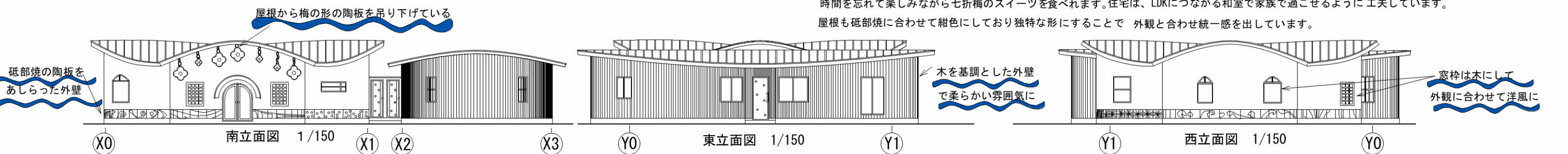


# かいいん 灰簾 ～砥部の青いダイヤモンド～



商品を受け取ってすぐに中庭に出て梅を楽しむことができる配置

1は客席、2は厨房、3は商品棚、4はホールとそれぞれの梅の花ごとに分かれてスペースを作っている



砥部焼の陶板をあしらった外壁

屋根から梅の形の陶板を吊り下げている

木を基調とした外壁で柔らかい雰囲気

窓枠は木にして外観に合わせて洋風に

## ○設計主旨

皆さんは七折梅が砥部焼に並ぶ有名な特産品の一つだと知っていますか？ 砥部焼のことは知っているけど七折梅は、知らないという人が多いと思います。そこで私は七折梅と砥部町に焦点を置いてこの灰簾を提案しました。砥部町は砥部焼のほかに観光資源が少ないと思います。このカフェをきっかけに砥部町の発展と七折梅のおいしさをたくさんの人に知ってもらいたいです。七折梅は、「青いダイヤモンド」と言われるほど品質が良くおいしい梅です。この七折梅をおいしく頂ける灰簾に来てみませんか？

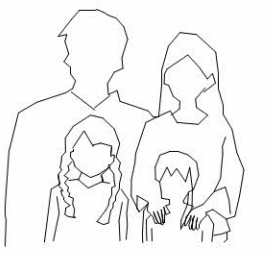
## ○建設予定地



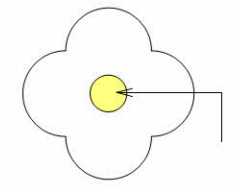
ここは砥部町役場の近くで、豊かな自然と町が溶け込む場所です。多くの方が行きかうところです。私がここを選んだ理由は、この場所はゆとり公園へつながる道路の横にある土地で砥部焼祭りでにぎわう時期には、全国の人が通る道であるため店を見つけやすいと考えたからです。

## ○家族構成

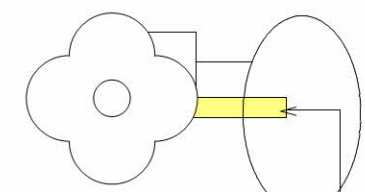
父	35歳	料理
母	35歳	カフェ巡り
姉	13歳	お菓子作り
妹	10歳	ショッピング



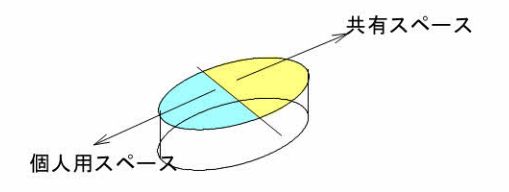
## ○ダイヤグラム



中庭を設けることで店舗に光を取り込み 開放的な空間にする



家の中にも土間を設けることで店だけでなく家でも提供できる

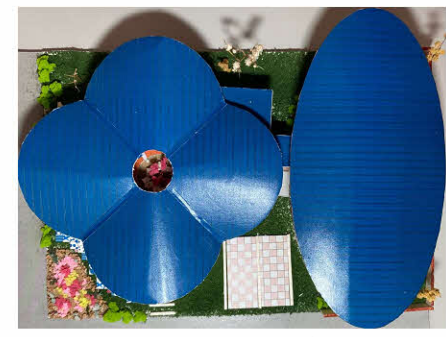


個人用スペースと共有スペースを分けることで、空間にメリハリをつけている

## ○七折梅について

七折小梅は、愛媛県伊予郡砥部町で1900年頃から栽培されている大変歴史の長い梅の品種です。品質が良いことから「青いダイヤ」とも言われています。小粒ながら種が小さく、果肉が厚いのが特徴です。果肉の色は透き通るような綺麗な黄色をしており、酸味が少ない品種です。梅酒や梅干しなど様々な梅製品に加工されています。愛媛県砥部町の「七折梅園」は、約16,000本の梅が咲き誇る四国最大級の梅林です。2月中旬から3月上旬にかけて見頃を迎え、「七折梅まつり」も開催されます。

## ○建物について



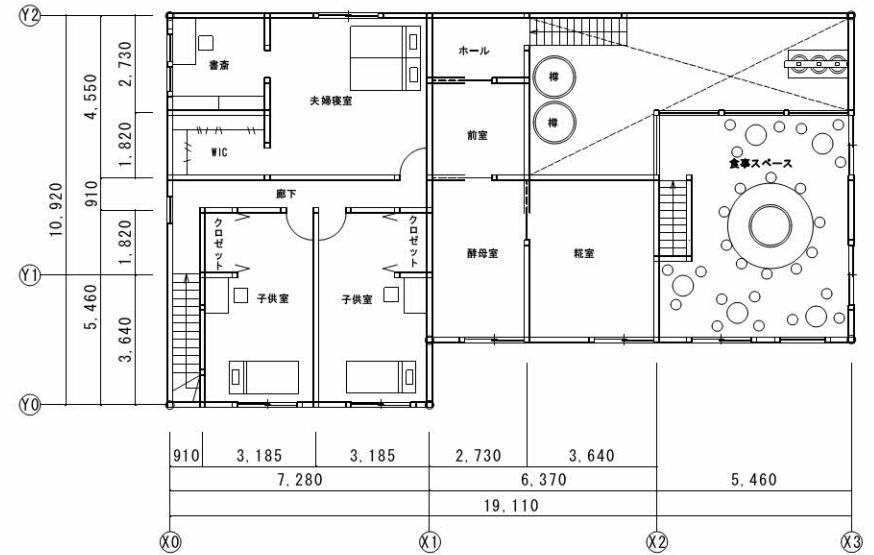
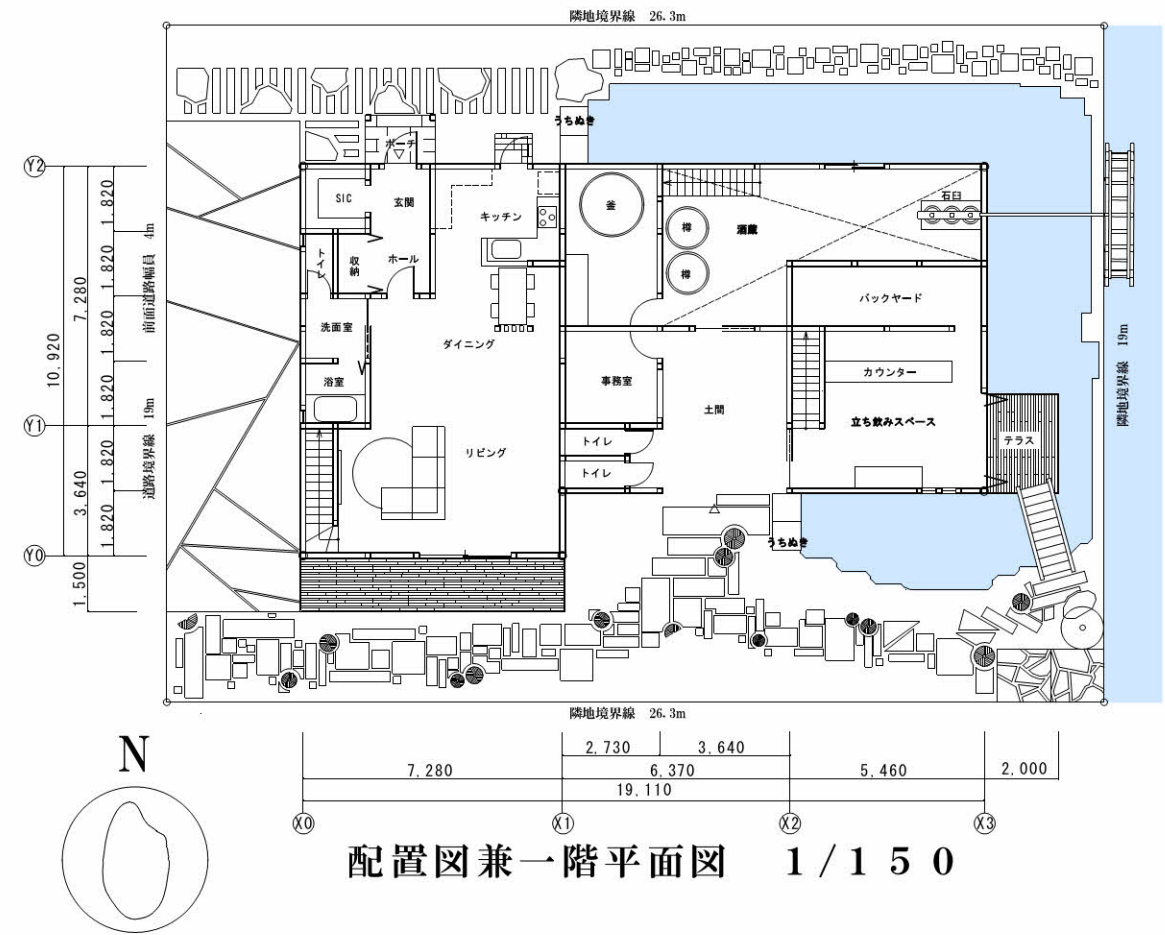
店舗の形は梅の花を模して外観から梅を感じることができます。また、中庭には梅の花を植えることで七折梅を身近に感じながらゆっくりと時間を忘れて楽しみながら七折梅のスイーツを食べれます。住宅は、LDKにつながる和室で家族で過ごせるように工夫しています。屋根も砥部焼に合わせて紺色にしており独特な形にすることで 外観と合わせ統一感を出しています。

# 津潤酒造所

～うちぬき文化と暮らす～



## 配置図、平面図、立面図



## 建設予定地について

愛媛県西条市は、南を石鎚山、北を瀬戸内海に囲まれた場所である。気候は温暖、さらに、うちぬきと呼ばれる全国的にもまれな地下水の自噴地帯が広がっている。豊かな自然だけでなく、歴史、行事との観点においても充実している。また、西条市は「水の都」と呼ばれ、市内の各所に水の流れる感じられる場所がある。湧水のひとつである観音水の泉から西条藩陣屋跡の堀まで流れる全長2.4kmの小川をアクアトピア水系と称し、整備されている。しかし、少子高齢化による人口減少に伴い、景観の維持、保全などさまざまな課題がある。



## 設計主旨

私たちの生活に欠かせないものと言えば皆さんは何を思い浮かべるだろうか。「食料」？「住居」？いえ私たちの生活において最も重要なものは『水』だ。生活だけでなく産業、環境にとっても水は欠かせない存在なのだ。言わば水があるからこそ人は生きられる。そんな『水』の大切さ、豊かな『水』が得られるこの土地の良さをもっと多くの人に実感して欲しい。常に『水』の流れを身近に感じながら生活ができれば『水』の大切さに気がつけるのではないかと思い、それとともに生きる暮らしを提案する。

## 家族構成

- 父 39歳
- 母 37歳
- 長男 9歳 小学3年生
- 長女 5歳 年長

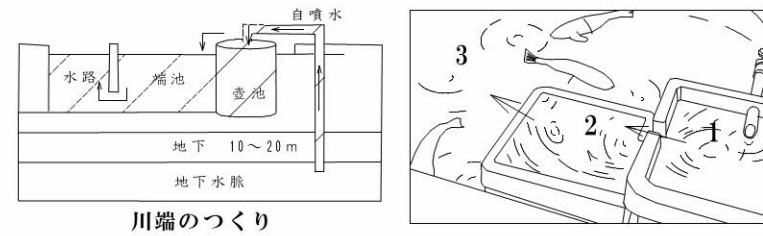
## 日本酒について

- 工程
- 1 精米 水車を動力に精米！
  - 2 洗米 うちぬきで得られる水で！
  - 3 蒸す
  - 4 こうじ造り
  - 5 酵母造り
  - 6 もろみ造り
  - 7 搾り
  - 8 ろ過・火入れ
  - 9 貯蔵・瓶詰め

## うちぬきの活用

綺麗な湧き水を生活用水に利用した「川端」というシステムを参考に水と密接に関わることができる生活を提案する

**つくり**  
湧き水を取水する元池、水をくみ上げる壺池、あふれ出た水を溜めておく端池の3つからなる。壺池は飲み水や洗面器などに取って洗顔・歯磨きなどに、端池は野菜や食器などを洗う場所として、野菜の洗いかずや食器についたご飯粒などはコイが餌として食べるため、水はいつも濁りなく透き通っている。



水の温度は年間を通して13~15℃で一定に保たれており、夏には冷たく、冬には温かく感じる。水槽で冷やした野菜や果物は、みずみずしく適度に冷たくとてもおいしい！

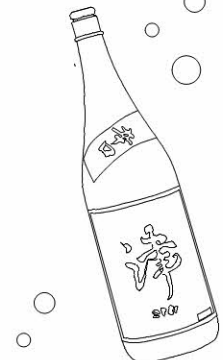
## お店について

**1F その場で楽しめる立ち飲みスペース**  
西条市の豊かな水から作る日本酒と地元の食材で作るつまみを添えて。店主や他のお客さんとの会話も弾み、1日の疲れが取れる癒しのスペース。テラスからアクアトピア水系の水のせせらぎを聞きながらお酒を飲むのもおすすめ！

**2F 酒蔵の作業を見ながらゆったりと食事を楽しめるスペース**  
上から酒蔵の全体を、日本酒の製造過程を実際に見られる開放的な場所で楽しいお食事を！

- 実際に酒蔵内の見学も可！
- 店の前にある水槽に入っている野菜を購入すること、購入した野菜を店内で調理して提供することも可！

身近に水を感じながらの生活でより充実した毎日を過ごしませんか？



# こどもほすぴたる

— 病児・病後児保育のある診療所 —



## 設計主旨

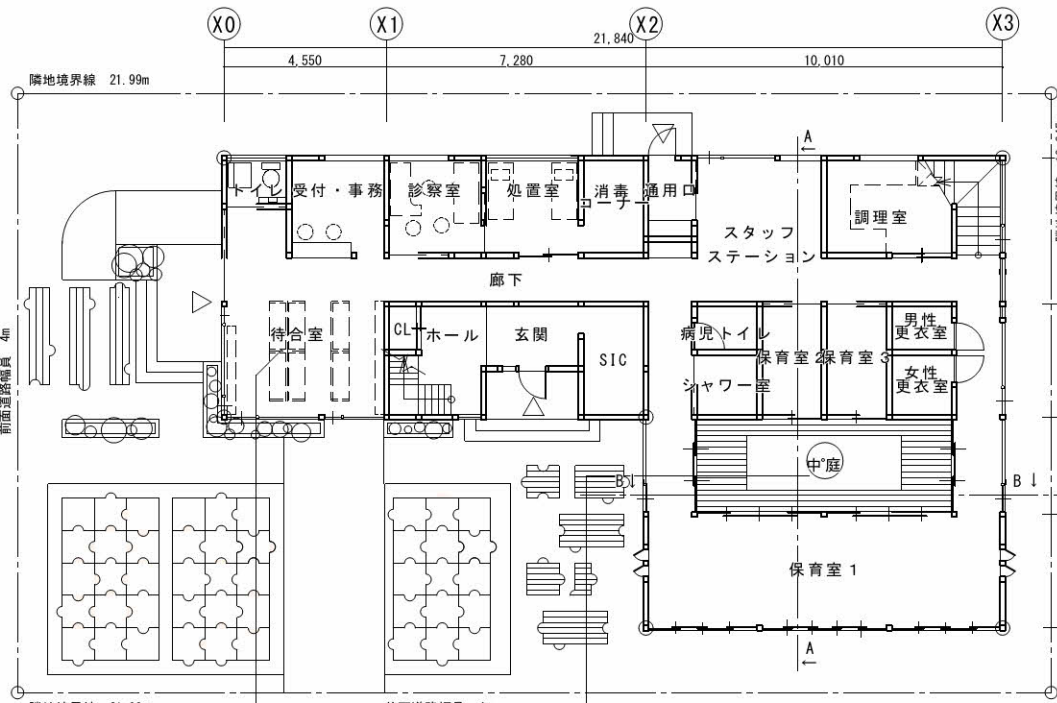
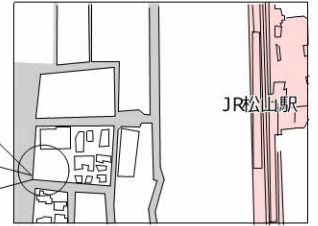
近年、共働き世帯の増加に伴い、子育て支援が重要になっています。子どもが病気にかかったとき、あるいは親子どちらも病気にかかったとき、身近に頼る人がいないことが少なくありません。そこで、病児・病後児保育事業に着目し、小児科併設の病児・病後児保育施設を提案します。病児保育・病後児保育は、常駐する看護師や保育士などの専門家によって保育・看護が行われるので、安心して子どもを預けることができます。しかし、「病気の子を預けるなんてかわいそう」というネガティブな世間のイメージがあります。ただでさえ弱っているときに普段と違う環境に子どもを預けるのが不安だとするならば、大人も羨ましがするような環境を提供する施設をつくりたいのではないかと考え、設計しました。

## 病児・病後児保育とは？

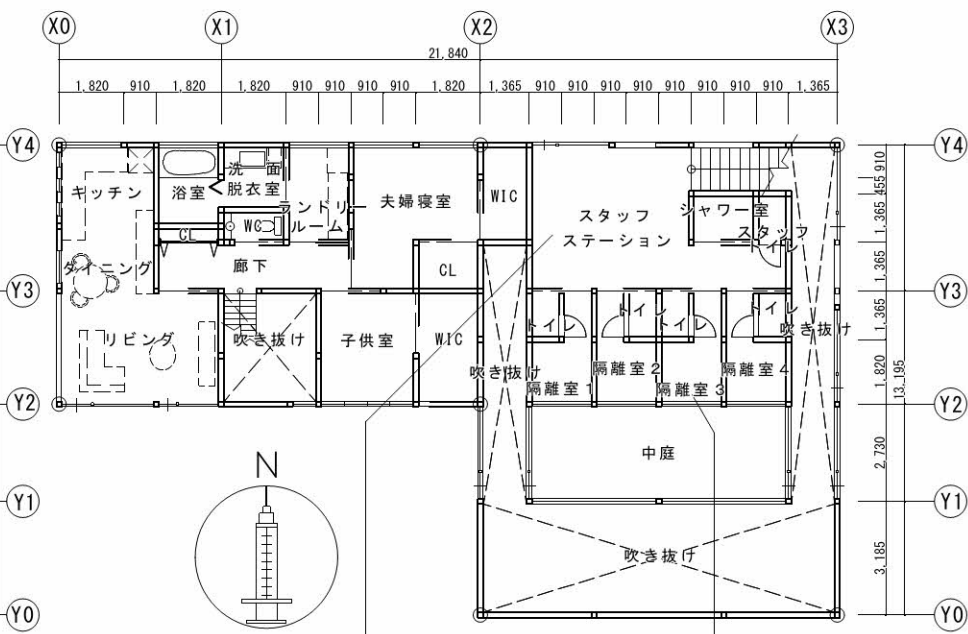
保護者の就労等の理由により病気にかかっている子どもを家庭で保育できない場合に、専門家集団〔保育士、看護師（士）、栄養士、医師等〕によって保育と看護を行い、一時的に預かることです。

## 建設予定地

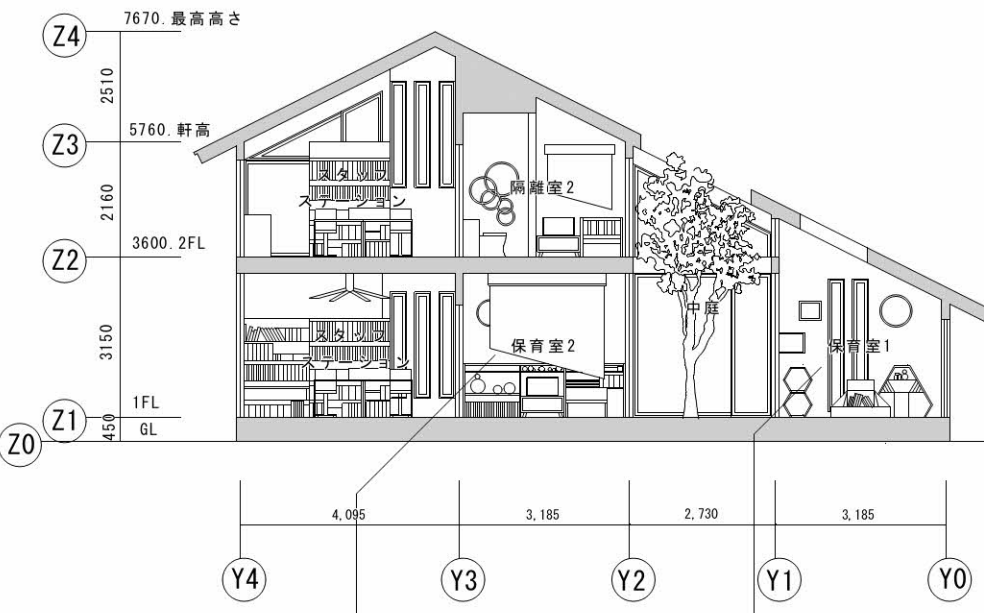
JR松山駅西口周辺の住宅街に位置しています。駅からのアクセスがよいので、仕事帰りに立ち寄りやすく、初診も受けやすいです。



一階平面図兼配置図 1/150



二階平面図 1/150



A-A断面図 1/100

### 待合室

外壁のほとんどをガラスにして光を取り入れ、待ち時間のストレスを軽減します。外から見えるので、入らなくても病院の雰囲気を感じることができます。

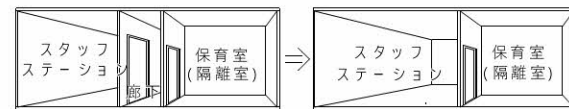
### 中庭

どの部屋にいても十分な採光をとれるように保育室で囲むように中庭を配置し、天井部分は丸く切り抜きました。中庭の東側は子どもが通るよう、西側は更衣や配膳などでスタッフが通れるようにしました。



### スタッフステーション

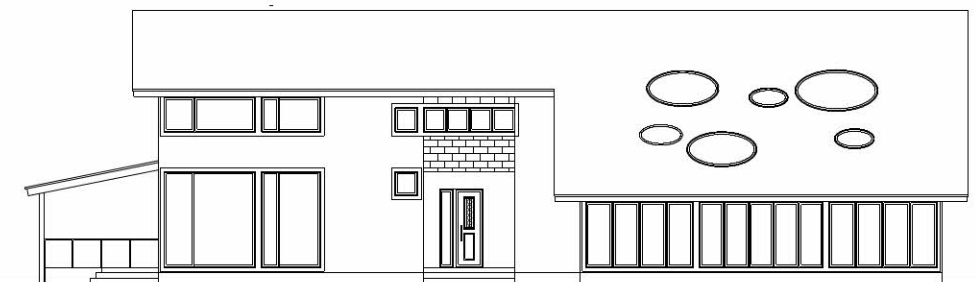
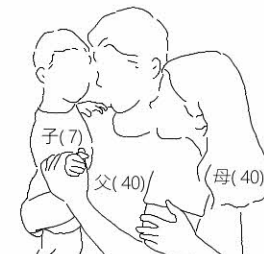
保育室との間の廊下と柱を省き、子どもの体調変化に対応しやすいようにしました。調理室と隣接しているので、スタッフ自身の昼食を作れるようになっています。



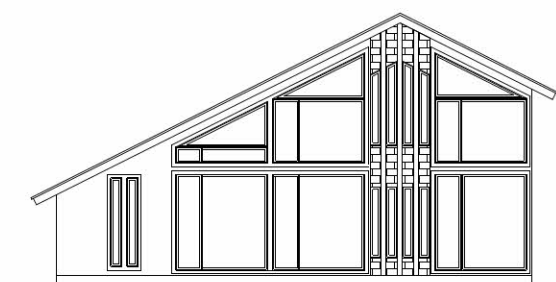
### 隔離室

感染症などにより隔離しなければいけない場合に使う室です。南側に中庭があり、寝込んでいてもプライバシーを守りながら自然光を受けることができます。一階を病児保育室、二階を病後児保育室と分けて、感染のリスクを下げています。

### 家族構成



南立面図 1/150



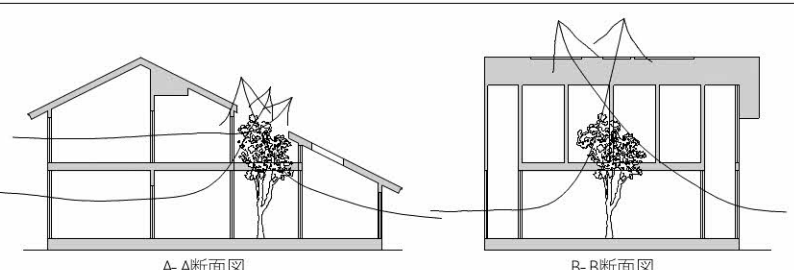
東立面図 1/150

### 保育室2,3

回復期にある乳幼児の保育に使う室です。中庭から保育室1を見ることができ、乳幼児たちの好奇心をくすぐります。

### 保育室1

複数人の幼児～小学生を収容できる広い保育室です。南側からの採光により、一日中温かみを感じることができます。

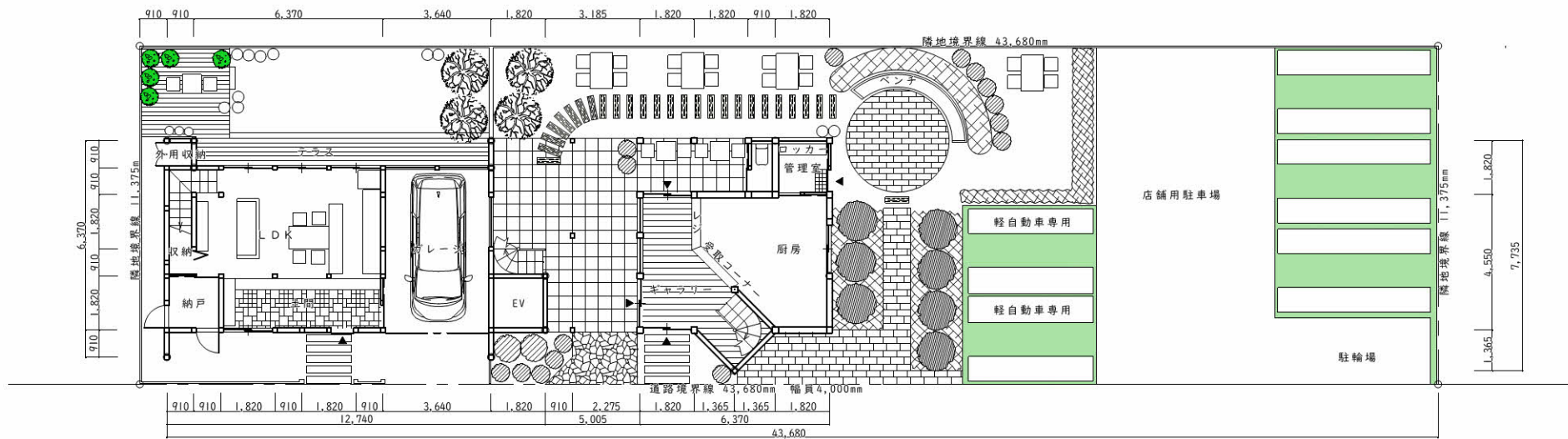


四方向の風の通り道をつくることで効率的に空気を循環させたり、空気中のほこりを外に排出します。また、天窗を設けて、照明をつけずに室内を明るくします。この適度な明るさによって子どもの寝つきを良くし、過ごしやすい環境を生み出します。

# カフェ・レストラン

## 「伊澄」

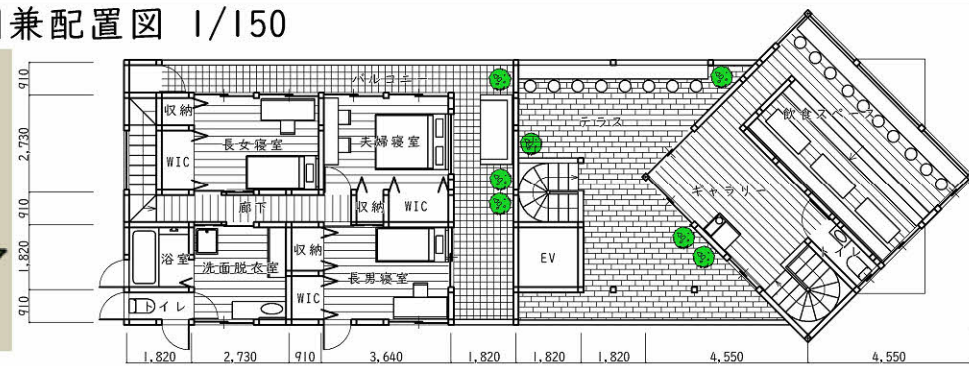
～青色と黄色の澄んだ景色～



1階平面図兼配置図 1/150



敷地全体3Dイメージ



2階平面図兼配置図 1/150

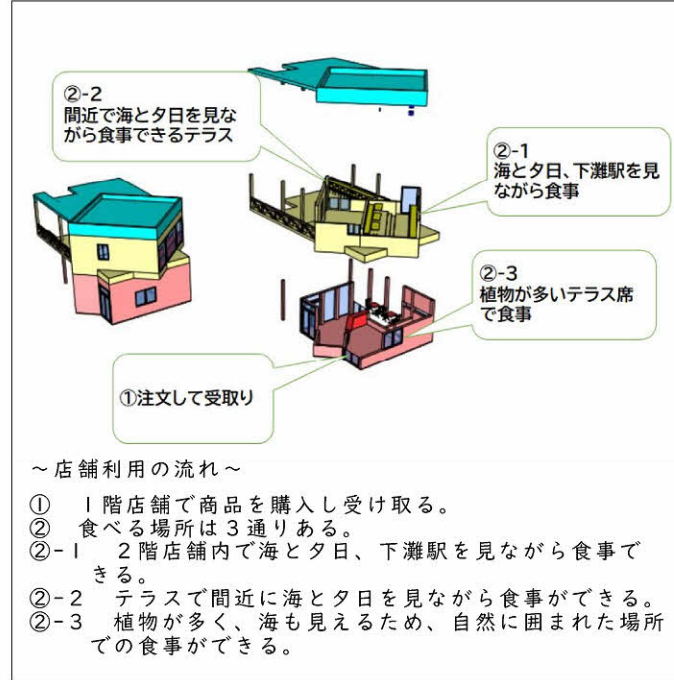
### ○設計趣旨

瀬戸内海に浮かぶ夕日が見える駅で有名な下灘駅の隣にカフェ・レストラン「伊澄」を提案する。  
下灘駅は、夕日を見に多くの人が訪れる。しかし、駅周辺には店舗がほぼなく、夕日を見るだけで帰ってしまう観光客が多い。また、電車で訪れた観光客は帰りの電車が来るまで1時間ほど待つこともある。そこで、短い時間での休憩にも、長時間の下灘の滞在にも対応できるように、カフェ・レストランを設計した。店内からもきれいな海・夕日、そして下灘駅も見えらるような設計となっている。  
また、夕日が見えるカフェ・レストランということで、夕日にかけて黄色の建具を一部に使用している。

### ○面積表

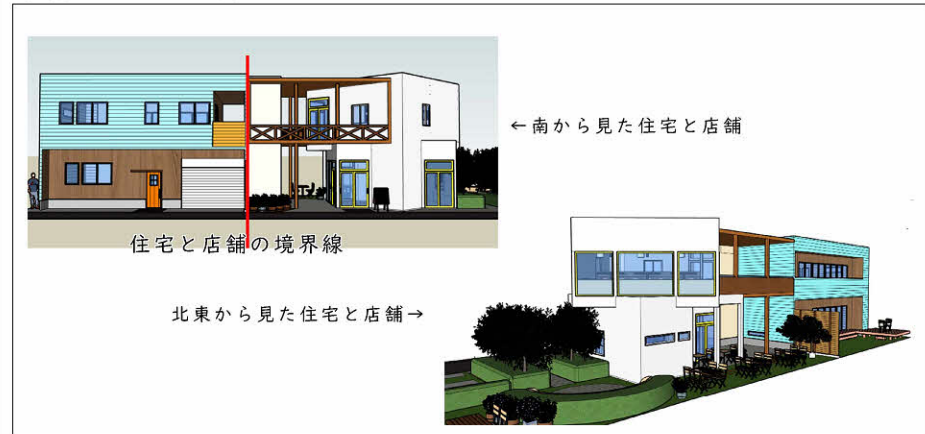
敷地面積	496.86㎡	建築面積	130.84㎡
1階床面積	99.58㎡	2階床面積	124.25㎡
延床面積	223.83㎡		
建ぺい率	26.33%	容積率	45.05%

### ○ダイアグラム(店舗)



### ○外観の工夫

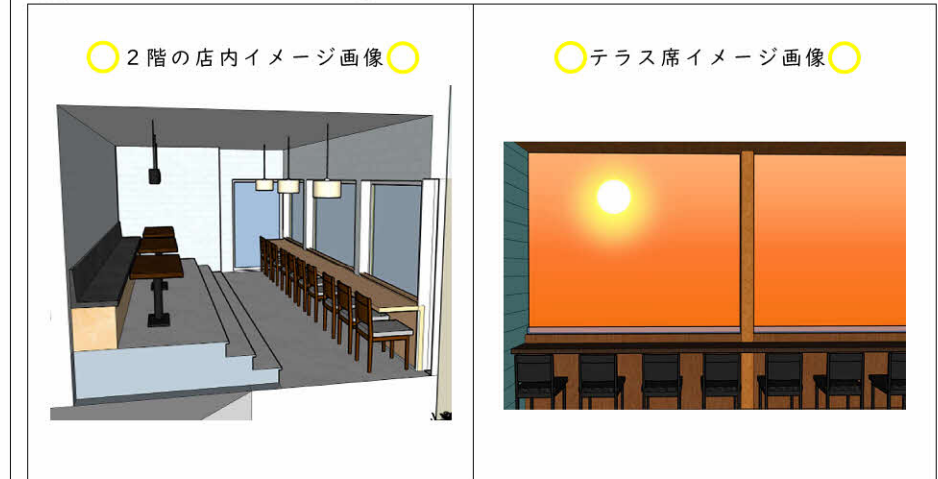
#### 外観イメージ画像



2階に飲食スペースを設けたため、1階を住居にすると、プライバシーの確保が課題となる。そのため、店舗と住居をわけた。これにより、店舗と住居に境目ができ、プライバシーを確保することにつながる。  
また、住居には部屋から海が見えやすいように、大きい窓を1階にも2階にも設けた。ベランダは、海風が通りやすいように南北に長く設け、南側の部屋にも風が来るようになっている。また、ベランダにソファを設け、ゆっくりと休める環境になっている。

### ○内装の工夫

#### 飲食スペースイメージ画像



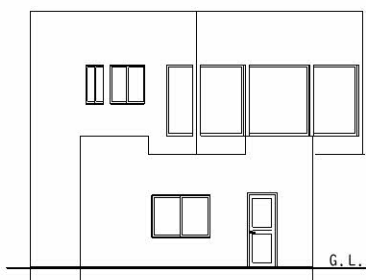
店内の飲食スペースは大きな窓を配置し、海と下灘駅がみられるような設計となっている。また、後席の人も問題なく見られるように、後席を50cmほど高くしている。  
また、窓がなく、海を間近に見ながら飲食できるように、テラスに飲食スペースを設けた。

### ○建設予定地

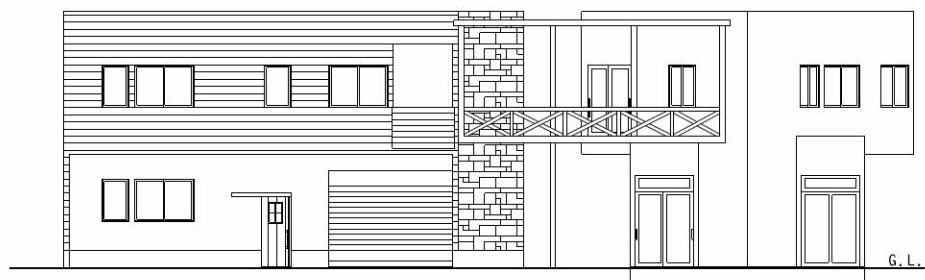


### ○家族構成

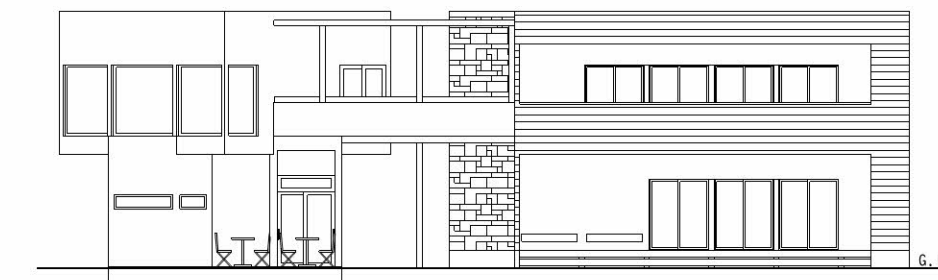
年齢	趣味
父(45)	料理
母(39)	読書
長男(16)	釣り
長女(13)	漫画制作



東立面図(店舗側) 1/150



南立面図 1/150



北立面図 1/150



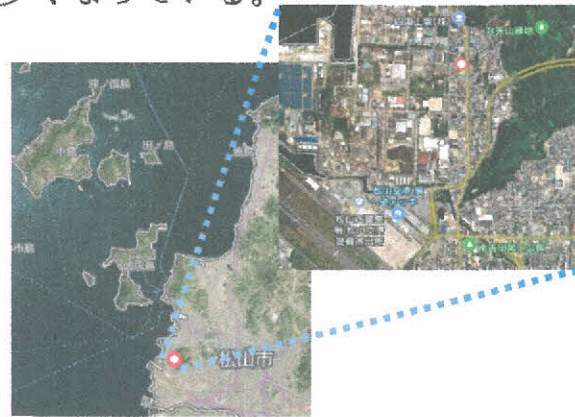
# たこ焼き バイキング

～家族や友達とたこ焼きパーティー～

## 背景

- スマホの普及や新型コロナウイルスにより外に出て遊んだり食事をする事が減りつつある。また、外に出かけたとしてもスマホやゲームを手に遊んだり直接、家族や友達とコミュニケーションをとれていない。
  - 消費者の購買行動が変化し、消費の対象が物から体験へと変化している。
- そして、インバウンドにより日本に来て価値のある体験をしたいと考える外国人が多くなっている。

建設予定地  
松山市



## 設計主旨

バイキング形式の自分で焼く事の出来る体験型のたこ焼き屋を公園の前に造る事で公園に行くきっかけになり、家族や友達とコミュニケーションをとりやすく、外国人には日本食の「たこ焼き」を体験してもらえらる。

体験型飲食店とは、単に食事を提供するだけでなく、訪れる顧客に特別な体験やユニークなサービスを提供する飲食店のことを指します。



## 家族構成

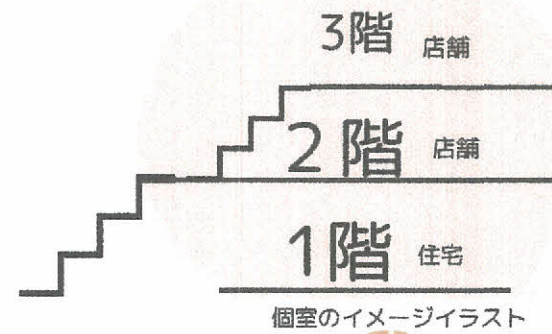
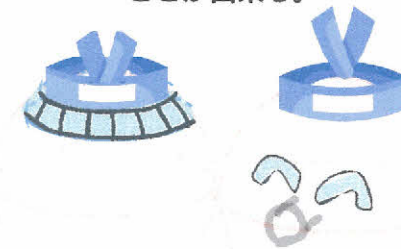
父(40)釣りが好き  
母(38)料理が得意  
子(17)ゲームが好き

父が新鮮な食材を厳選  
母が生地とトッピングを考える  
子は学校の無い日にホールの手伝い

## バイキング内容

- 1.生地(粉・出汁)
- 2.具(たこ・ねぎ)など
- 3.トッピング(ソース・青のり)など  
好きな物を好きなだけ取れる

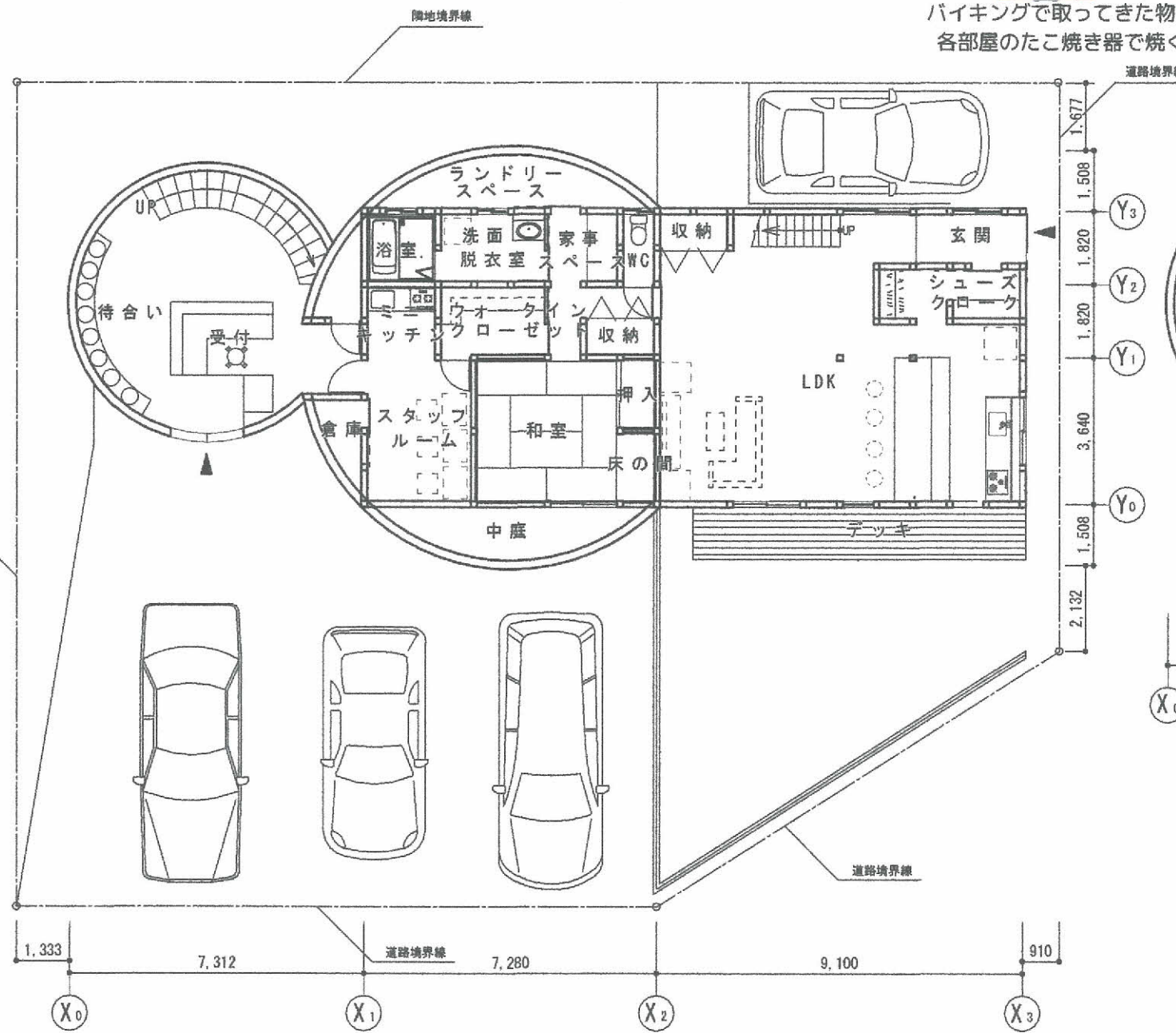
周りを壁に囲まれて、立面図では窓がないように思える店舗2・3階。  
実は目の部分に窓をはちまきの下に天窗を設けて図のように2方向から光を取り入れることが出来る。



個室のイメージイラスト



バイキングで取ってきた物を各部屋のたこ焼き器で焼く

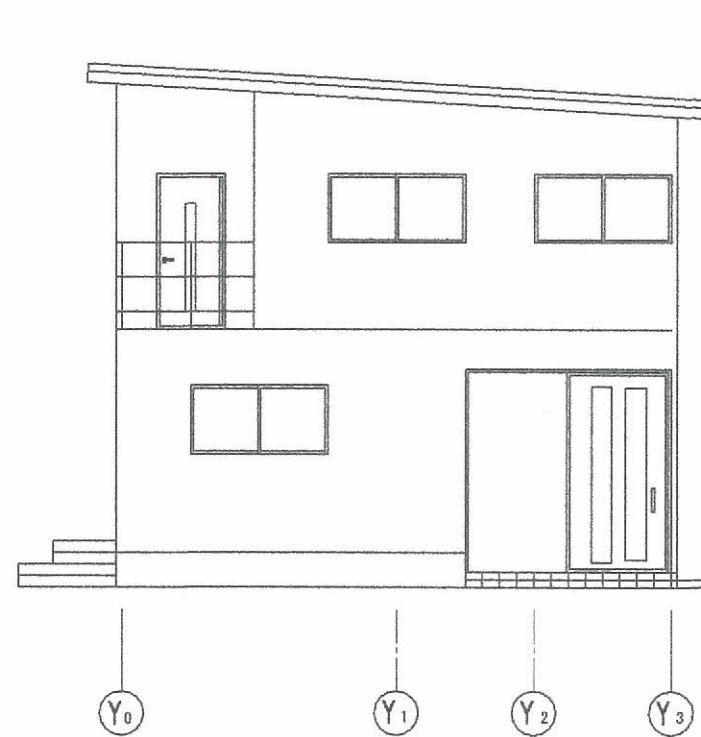


2階平面図 S=1/150

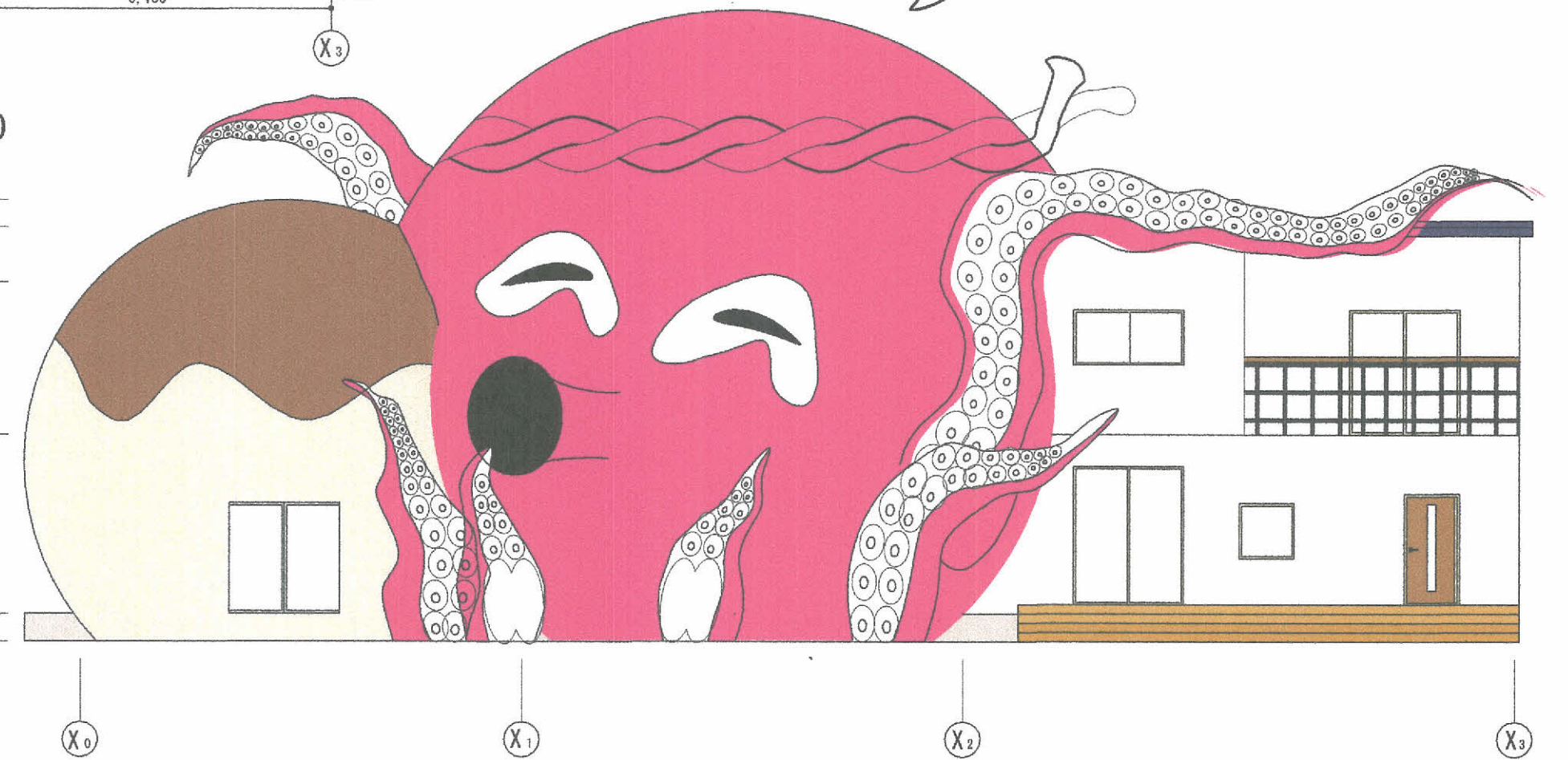


たこ焼きと蛸部分の柱・梁は湾曲集成材を使用している。

配置図兼1階平面図 S=1/150

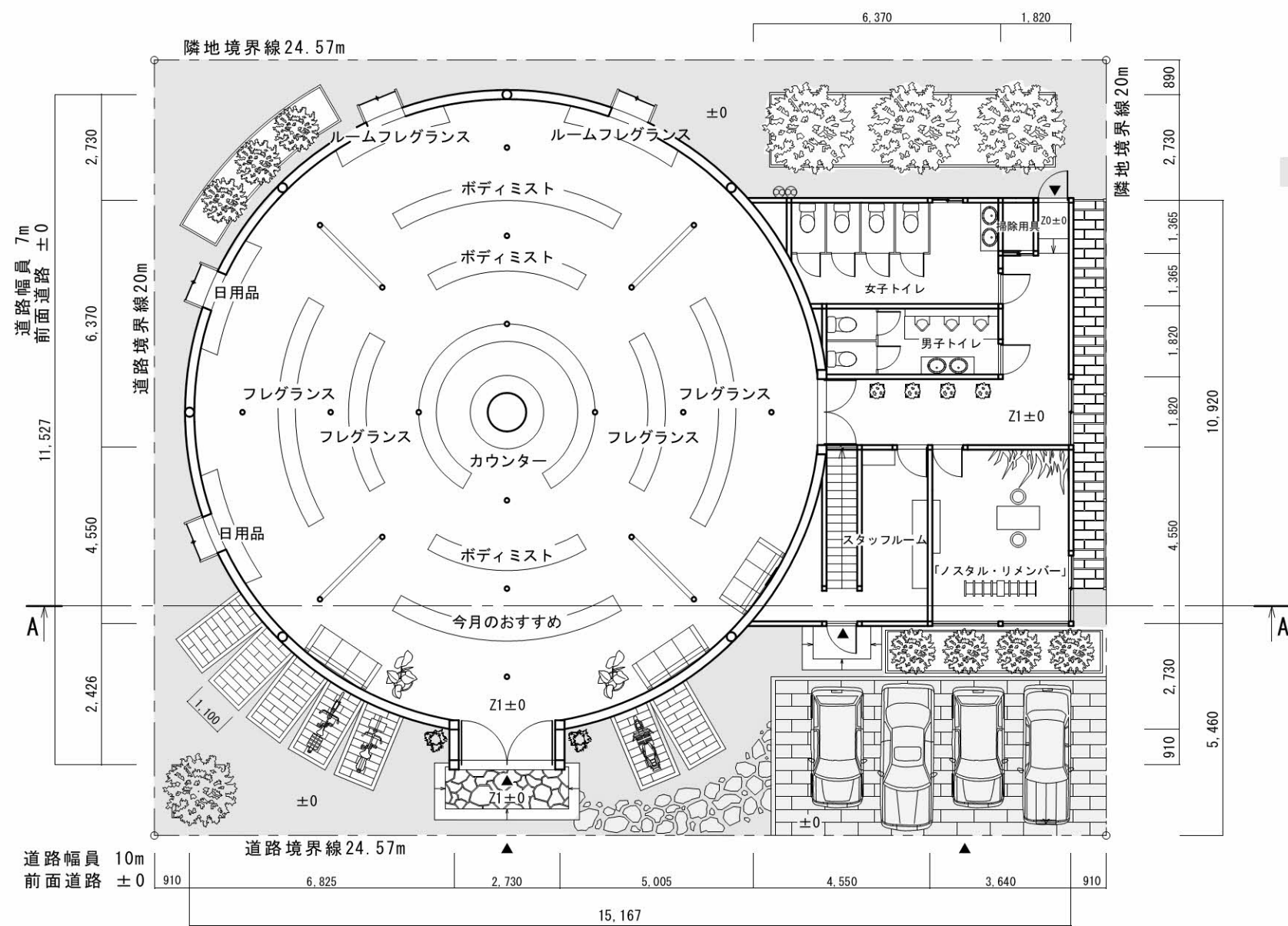


東立面図 S=1/100



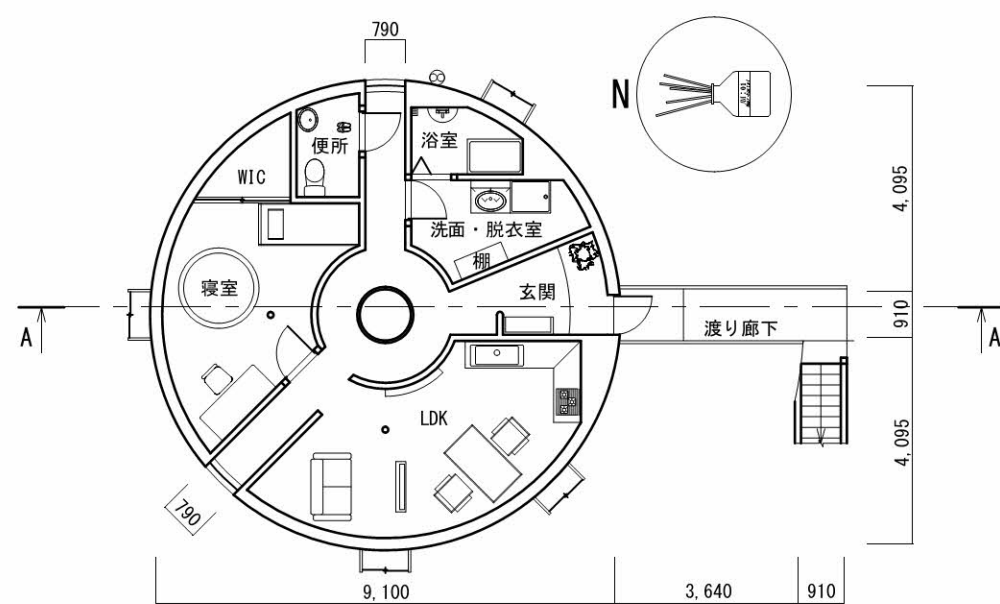
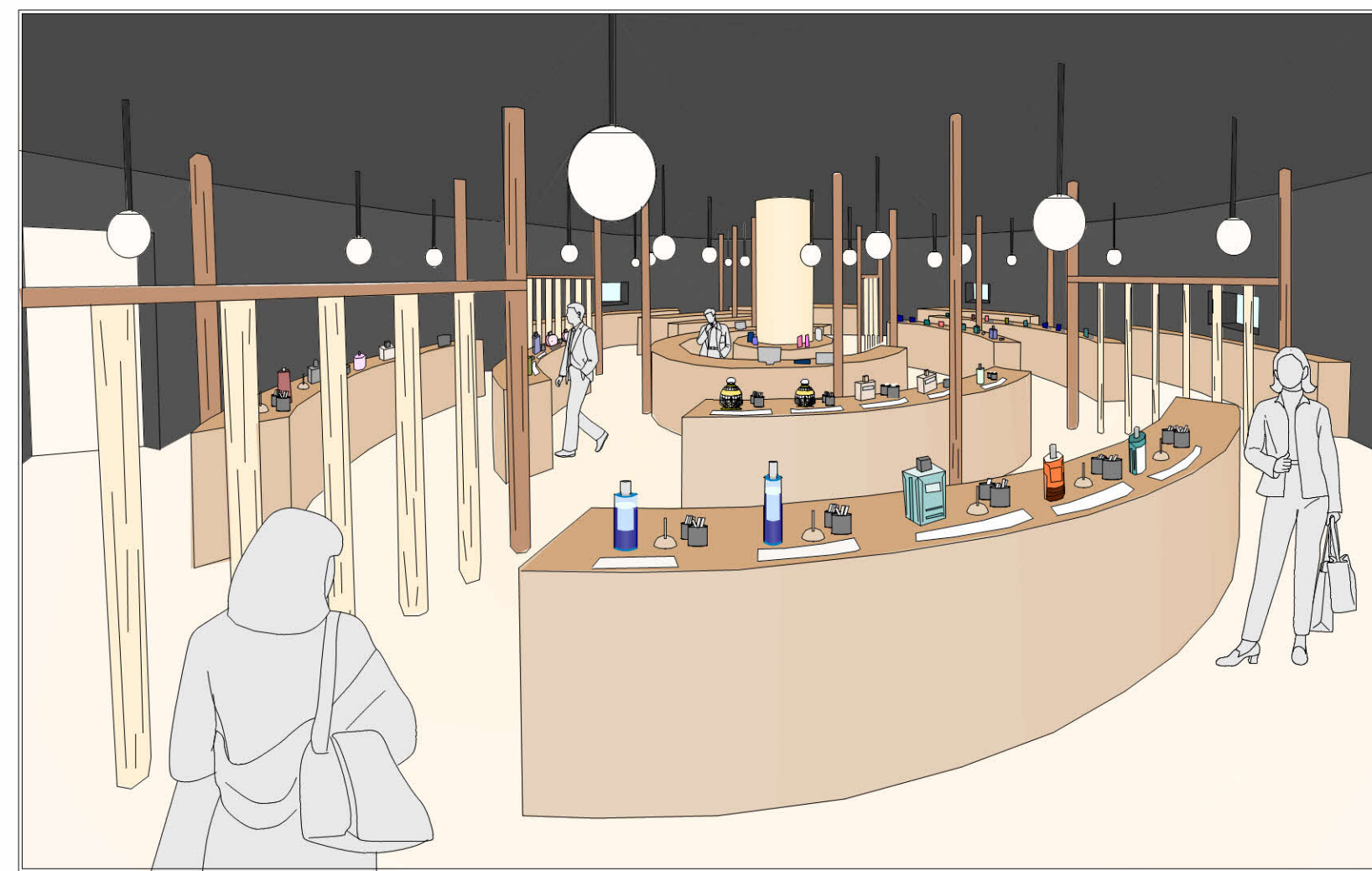
南立面図 S=1/100





配置図兼1階平面図 S=1/120

内観イメージ



2階平面図 S=1/120




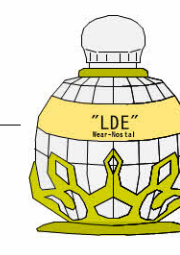
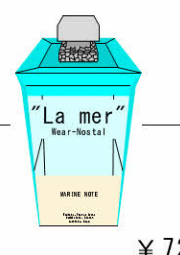
# FRAGRANCE WEAR-NOSTAL

人には皆、美しい思い出がある。  
人には皆、大切な過去がある。  
それらはどれも、香りと共にあった。  
ノスタルジックな香りを纏う。  
初めての恋をしたあの日も、  
別れを惜しんだあの日も、  
酸いも甘いも。



## 設計趣旨

「調香を体験してみたい」「私の好きな香りが欲しい」  
そんな想いに応える施設。25歳男性が運営するここは、  
“Wear-Nostal” — 思い出を纏う。ノスタルジーをテーマに  
懐かしさのある香りを提供します。本店舗は、香水のボトルを  
イメージしたドーム型になっており、次の二つの理由から  
開口部を少なくしています。一つ目は、シックで高級感のある  
雰囲気になるよう、室内を暗くするためです。  
二つ目は、香水は直射日光に弱いからです。また蛍光灯の  
紫外線にも弱いので、照明にはLEDを用いた  
ペンダントライトを使用しています。  
そして「ノスタル・リメンバー」では、オリジナルの香水を  
作成できます。植物に囲まれた空間で、お客様に合った香りを  
店主と相談しながら調香します。  
あなたのノスタルジーに寄り添いたい。  
あの思い出を香りにしてみませんか？

 ¥9680 <b>Wear-Nostal “Chagrin”</b> <small>シャグラン</small> Top note ジャスミン Middle note ベトリコール Last note ペチパー <small>あなたを想う夜。窓を這う雨粒が、私の心を締め付ける。 甘いジャスミンと、雨に濡れた土の香り。ペチパーが胸にのびるような香りを醸し、私は静かに目を閉じる。</small>	 ¥13640 <b>Wear-Nostal LDE (La Douleur Exquise)</b> <small>レドゥーラー エクスキーズ</small> Top note 銀木犀 Middle note 金木犀 Last note ジャスミン <small>「La douleur exquisite」 一決して来入らないと分かっていても それでも愛したいという、絶妙な心の痛みを表した言葉。 痛みを受け入れたとき、人は大人になる。 痛みを忘れたとき、人を愛せるようになる。</small>	 ¥7260 <b>Wear-Nostal “La mer”</b> <small>ラメール</small> Top note フローラルオゾン Middle note カロン Last note 石鹸 <small>六月の正午。 打ち寄せる波が、あなたの足跡を消してゆく。 清新な海風が、あなたの髪をなびかせる。 カロンはフローラルオゾンの美しい香りよ、 清涼感のある石鹸の香り。 この美しい時間が、いつまでも続くよう願う。</small>
--	--	--

## 面積表

延べ床面積	340.51㎡	敷地面積	491.40㎡
建ぺい率	55.80%	建築面積	274.20㎡
容積率	69.29%	一階床面積	274.20㎡
		二階床面積	66.31㎡

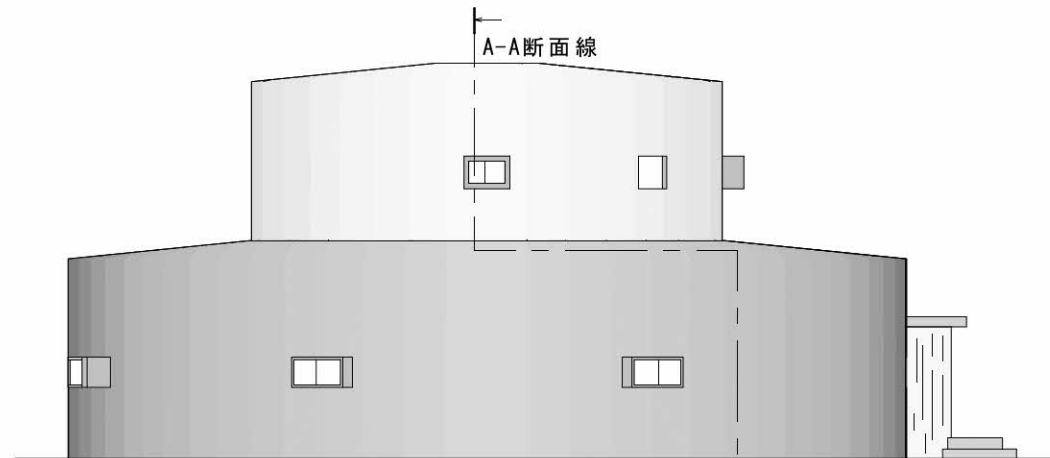
## 建設予定地



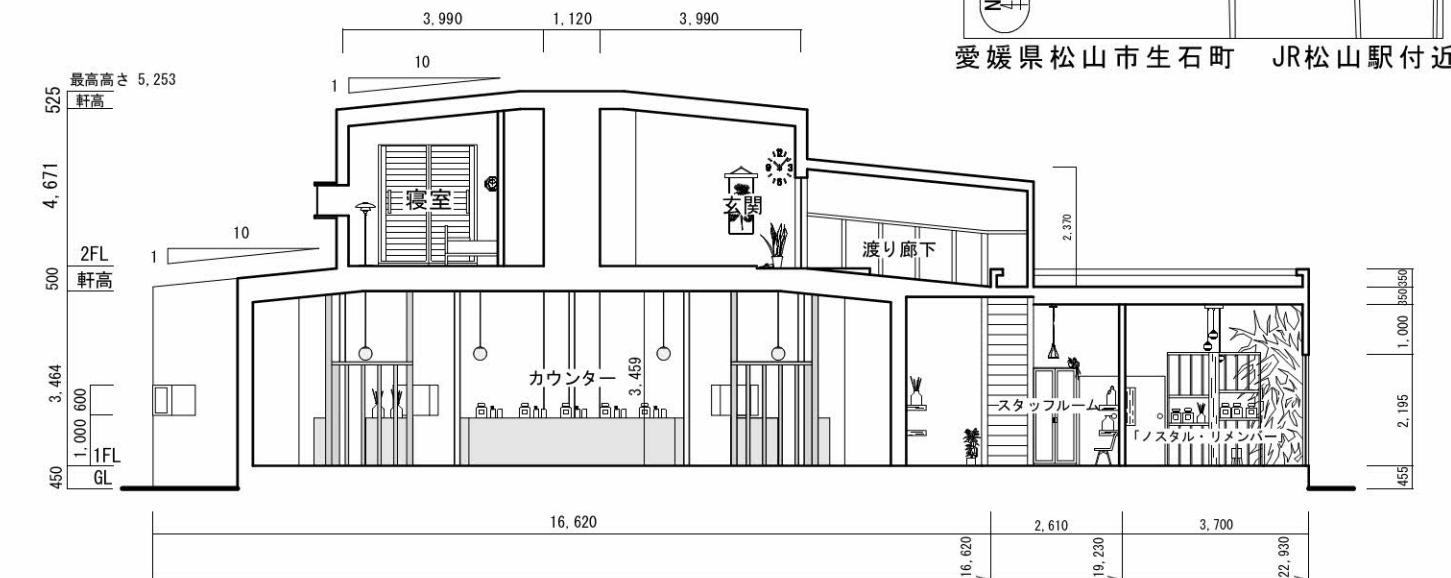
愛媛県松山市生石町 JR松山駅付近



南立面図 S=1/150



西立面図 S=1/150



A-A断面図 S=1/150

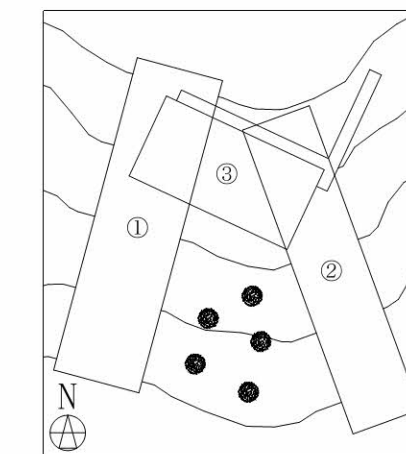


周辺地図



配置兼平面図S=1/400

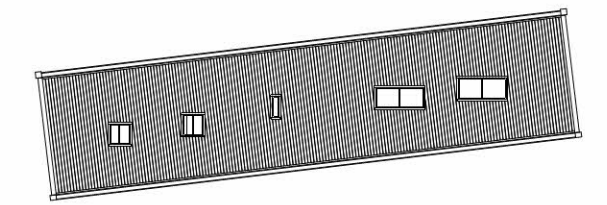
- ① 住宅棟
- ② 販売棟
- ③ 厨房棟



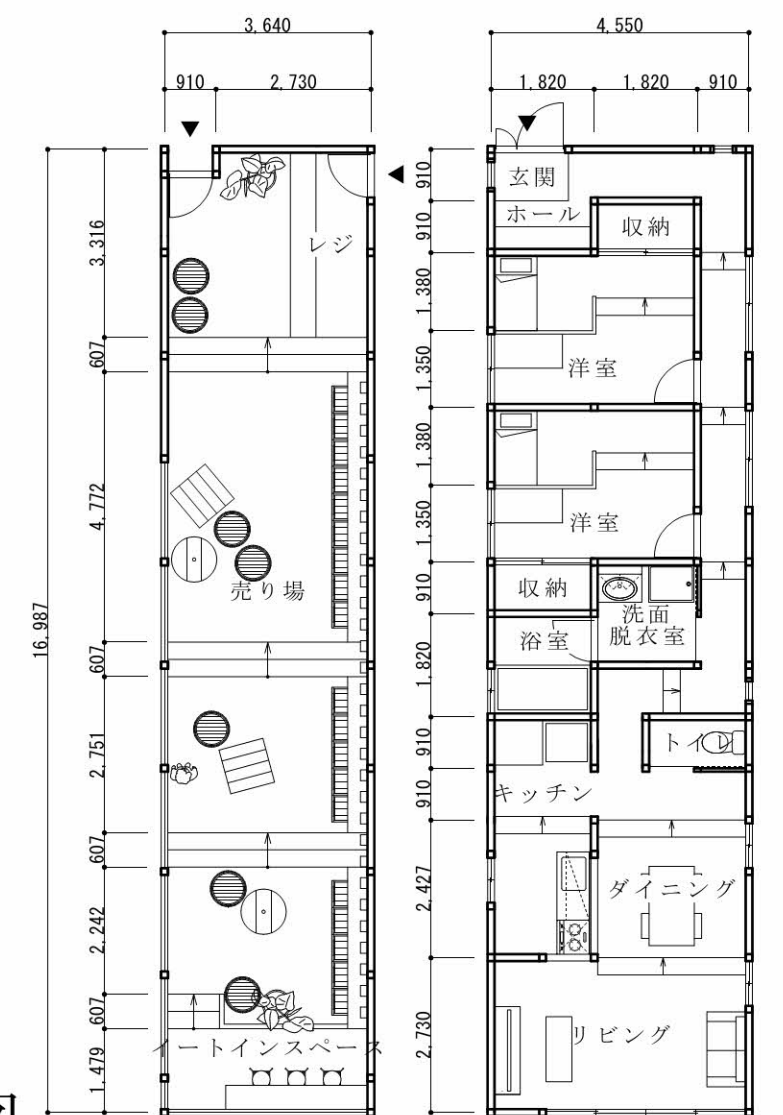
外装

外装はコンテナハウスをモチーフにしており、その見た目はすべての棟で統一されている。建物自体の見た目をシンプルにすることで、建物同士の個性的な配置に目が奪われる。

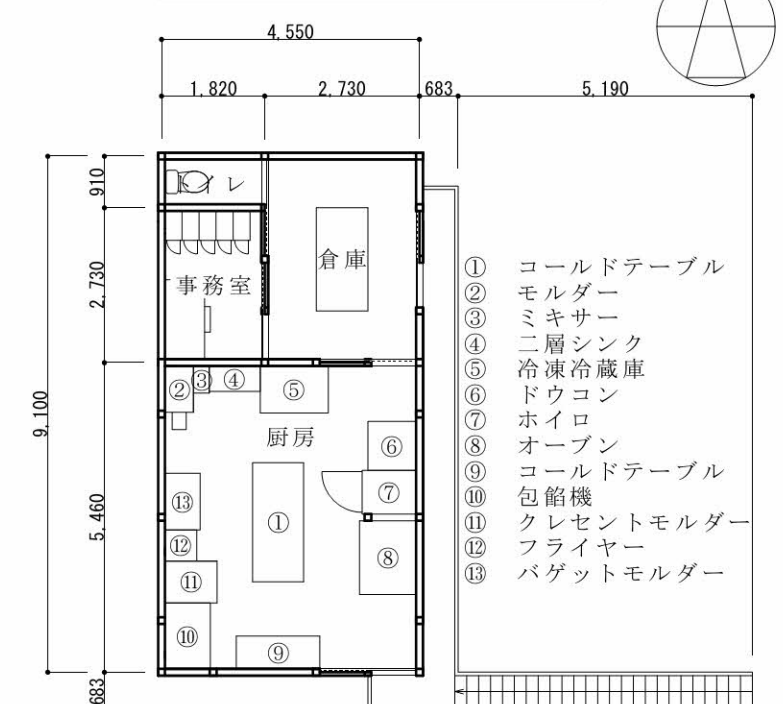
住宅棟東側立面図S=1/250



売り場棟平面図S=1/150 住宅棟平面図S=1/150



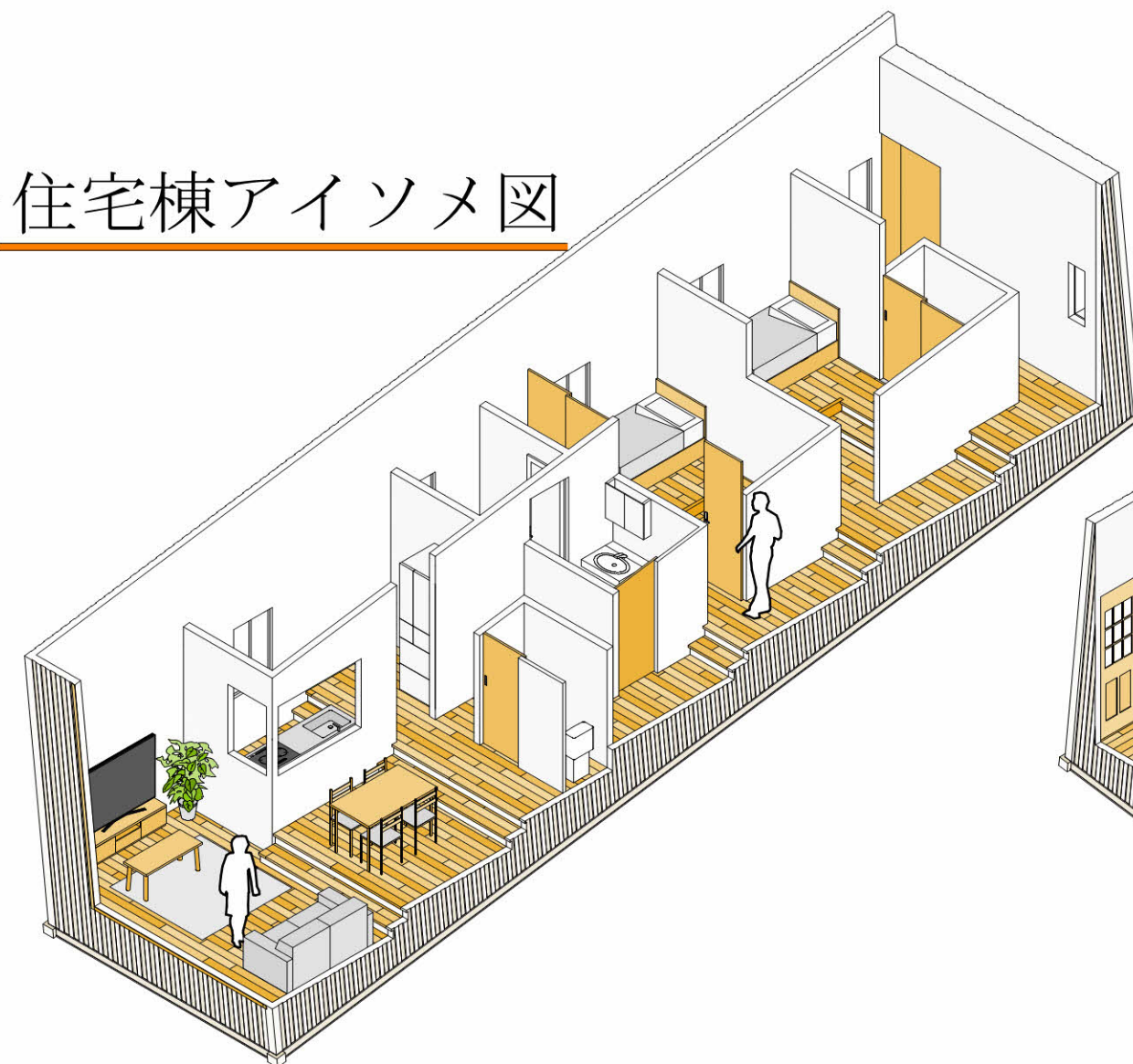
厨房棟平面図 S=1/150



- ① コールドテーブル
- ② モルダ
- ③ ミキサー
- ④ 二層シンク
- ⑤ 冷凍冷蔵庫
- ⑥ ドウコン
- ⑦ ホイロ
- ⑧ オープン
- ⑨ コールドテーブル
- ⑩ 包餡機
- ⑪ クレセントモルダ
- ⑫ フライヤー
- ⑬ バゲットモルダ

# ななめ屋

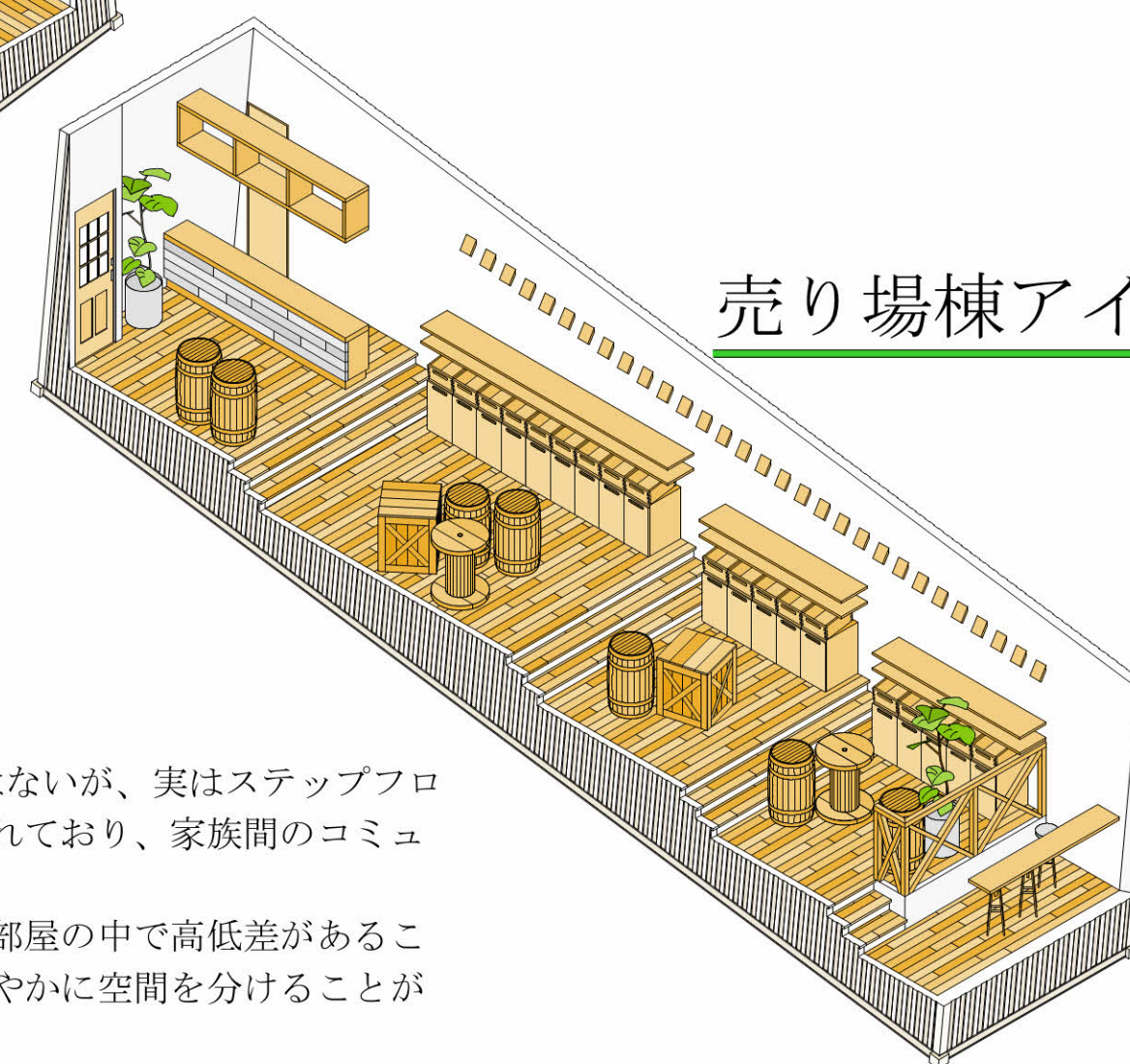
## 住宅棟アイソメ図



## 売り場棟

この建物では主に地域でとれるみかんを練り込んだパンや、バゲット、総菜パンやドーナツなど多種多様なパンが売られており、その店内はパンの香りで満ちている。パンの熱気により温まった空気が建物の上へ向かい、その空気がパンの香りを届けることにより、入り口のドアを開けた瞬間お客さんはパンの香りに包まれるであろう。

## 売り場棟アイソメ図



延べ床面積	189.14㎡
容積率	39.35%
建蔽率	34.37%
敷地面積	480.65㎡
売り場棟	61.83㎡
住宅棟	77.29㎡
厨房棟	50.02㎡

## お店の概要

愛媛県八幡浜市。みかん畑の中にこのお店はある。地域の特産品である愛媛のみかんをふんだんに使用したおいしいパンを焼きたてで提供しており、その特徴的な見た目の建物が人の目を引き、SNSなどを通じ若者の間で話題になっている。

## 設計主旨

みかん畑に囲まれた建物。西側の棟は住宅、東側の棟はパンの売り場、中央の棟は厨房となっている。みかん畑の特徴でもある傾斜地に建物を立体的に配置し、唯一無二のお店を目指した。建物内どこにいてもこのお店の名前にもある「ななめ」を感じることができる部屋の配置を意識した。

## 住宅棟

家の南側にはLDKが配置されている。一見するとこれといった特徴はないが、実はステップフロアによって極力壁を配置しない緩やかな開放感のある空間が構築されており、家族間のコミュニケーション活発化が期待できる。プライベート空間である洋室にもステップフロアを導入している。部屋の中で高低差があることにより、上はリラックススペース、下は趣味のスペースなどと緩やかに空間を分けることができる。

# 和洋折衷

～白水台の自然を感じる～

## 設計主旨

私は、山の上に建っているペットカフェ兼旅館を設計しました。場所は、道後の白水台に建っています。この建物には二種類の特徴があります。一つ目は、ペットカフェとしてペットを飼っている人たちが集まり楽しむ空間です。毎日の散歩だけでなくもっとペットを走らせた・楽しませたいという人達の空間として建設しました。他にもふれあい広場をペット以外にも子供たちの遊び場として使用し、カフェを地域の人たちの憩いの場としても利用できるようにしました。二つ目は、道後に訪れた観光客の宿泊施設として旅館を建設しました。この旅館は白水台の崖付近に建っており道後の街並みを一望できるようになっています。また、建物の左右には山があり、四季によって変化する植物を道後の街並みと一緒に楽しめ、白水台の自然を感じられるようになっています。



南立面図 S=1/140

面積表	
敷地面積	454.34㎡
建築面積	207.82㎡
1階床面積	207.82㎡
2階床面積	207.82㎡
延べ床面積	415.64㎡
建蔽率	45.81%
容積率	91.62%

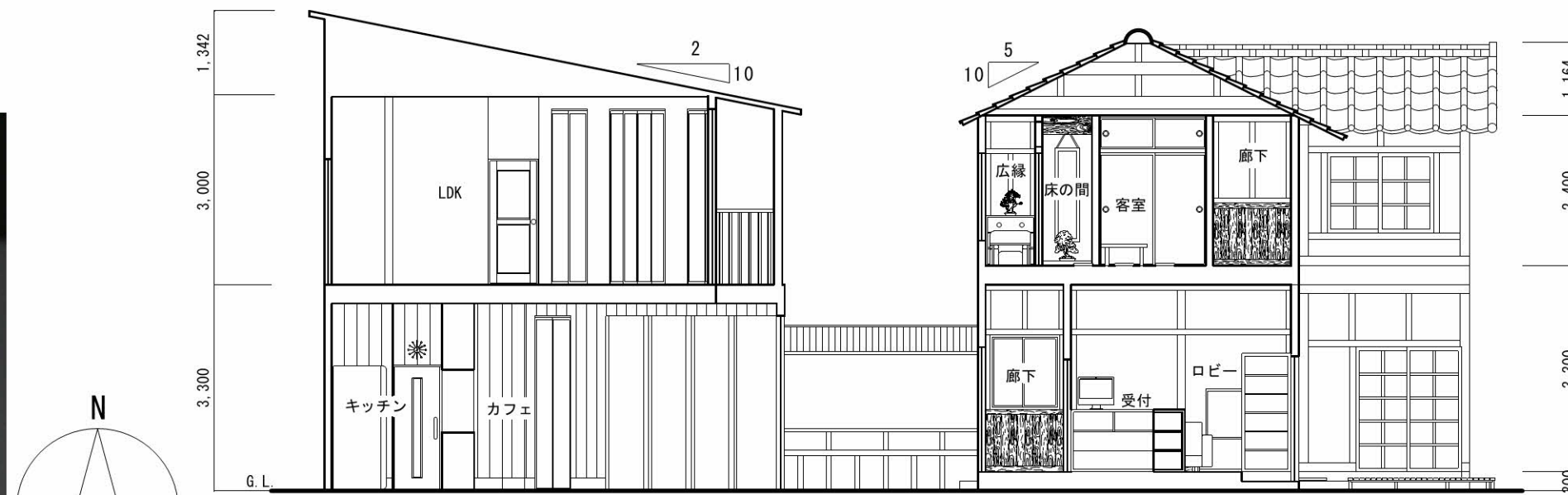


崖側テラスイメージ写真(上)

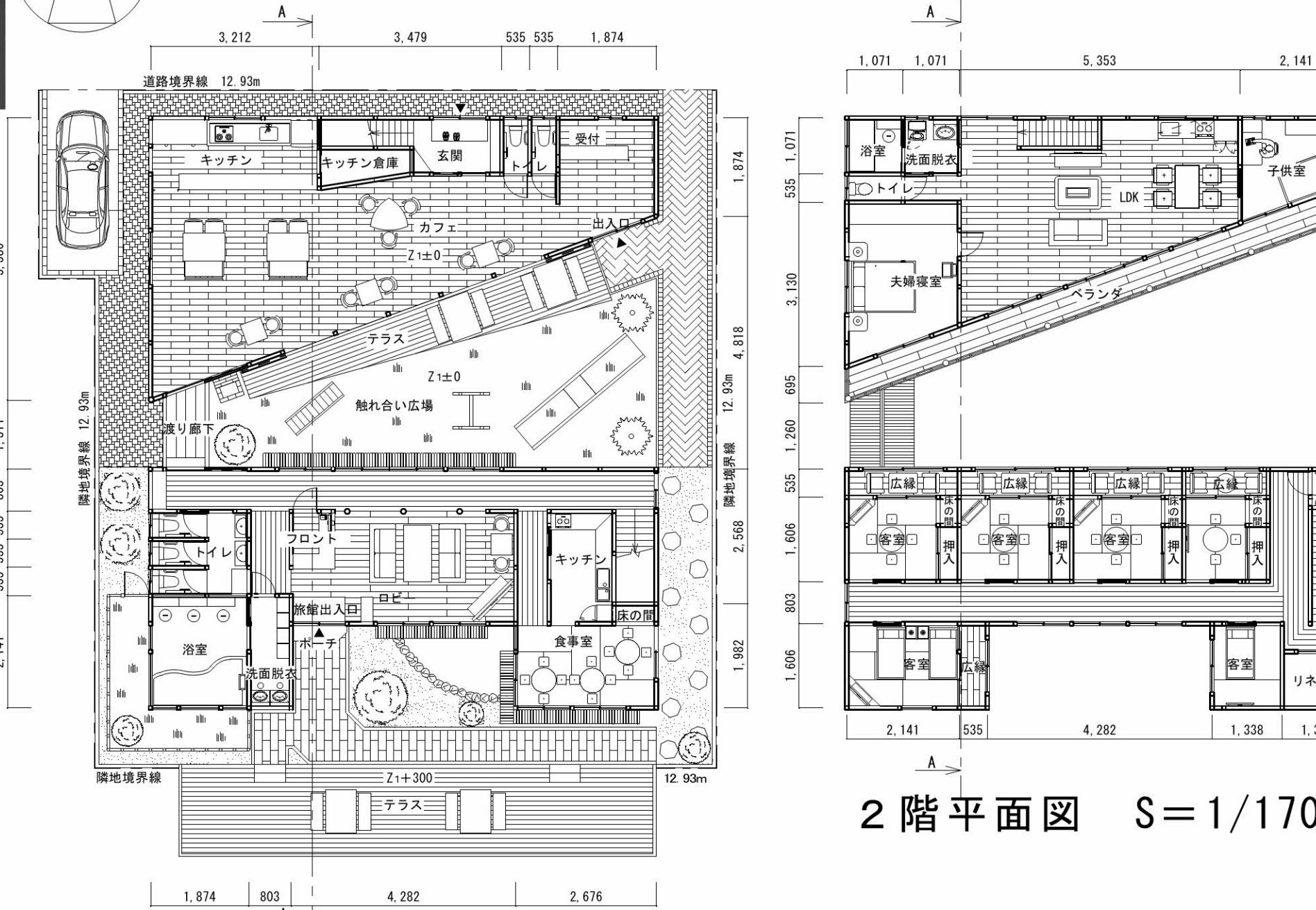
この空間は崖側に建っているため、テラスを取り付けて自然を楽しむ空間となっています。このテラスからは自然豊かな木々を楽しむほかに、机や椅子もあり談笑をしたりして落ち着きを感じられる空間となっています。



崖側テラスイメージ写真(横)



A-A断面図 S=1/100



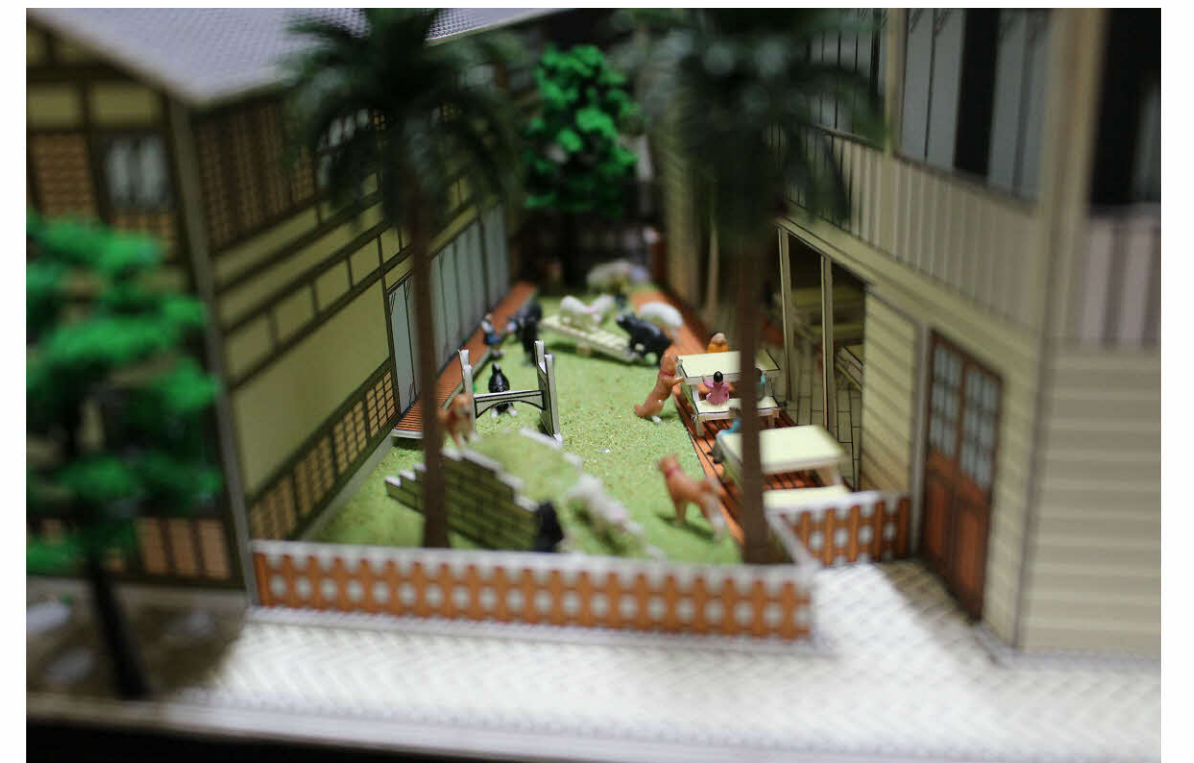
2階平面図 S=1/170

配置図兼1階平面図 S=1/170

## 建設選定理由

建設地域は白水台です。私が、この場所に建設しようと思った理由は中学生の時、道後巡りという校外学習で白水台を訪れたのがきっかけです。その時に、場所が高台で移動の利便性が不自由なうえに娯楽施設がとて少ないと感じ、もっと地域の人が集まり楽しめる施設があったらいいなと思い今回、白水台に建設しました。

この空間では、ふれあい広場として様々な動物と触れあえる空間となります。カフェとふれあい広場の高低差をなくすことによって、出入りをスムーズに行え開放感を得られるようになっています。この空間では、とても賑やかに楽しめる空間となっています。



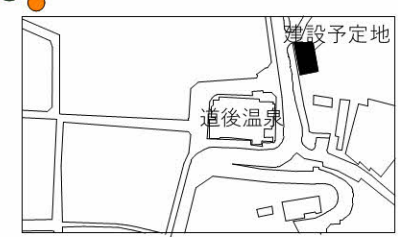
ふれあい広場イメージ図

# 味噌カフェレストラン 道樽

どうだる

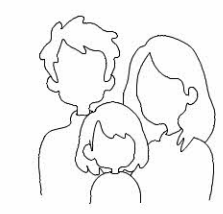
## ～味噌と苔庭の癒し時間～

### 建設予定地



道後湯之町  
道後温泉裏手の白鷺坂沿いに建てることで、道後温泉を眺めながらの飲食が可能となり、空の遊歩道の足湯につかる人々や、道後周辺のホテルに宿泊する方々の興味も惹くことができる。

### 家族構成



母 (39) 道樽オーナー  
父 (42) 造園技能士  
娘 (15) 高校1年生

### 設計趣旨

古くから和食に欠かせない調味料の一つとして、日本人に愛されてきた味噌。しかし、近年の日本人の米離れに伴い、味噌の消費量も減少傾向にあるという。「味噌カフェレストラン道樽」は、味噌を愛する店主を中心に、味噌の魅力を多くの人に伝えることを目的としたお店だ。日本各地から集めた多種多様な味噌と味噌商品の販売、味噌の飲み比べ、店主が作る味噌料理と味噌スイーツの提供を通して、道後を訪れた観光客の方々に、味噌の魅力を知ってもらう。苔庭や道後温泉を眺めながらゆったりとした時間を過ごすもよし。座敷で談笑するもよし。道樽の提供する味噌との時間を精一杯楽しんでほしい。

### 外観のこだわり



味噌樽をイメージした外観と、カーブを描いた樽模様のベンチが特徴。苔と植林を眺めながら、購入した商品の飲食ができ、ゆったりとした時間を過ごすことができる。

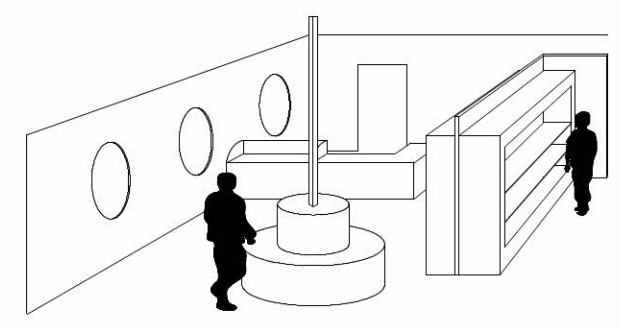


建物の南側は苔庭となっている。街中ではあまり見ることのできない立派な苔とごつごつとした岩が、遊歩道を歩く人たちの興味を惹く。また、この庭は店内のカフェスペースからも見ることができ、このお店特有の景色を楽しむことができる。

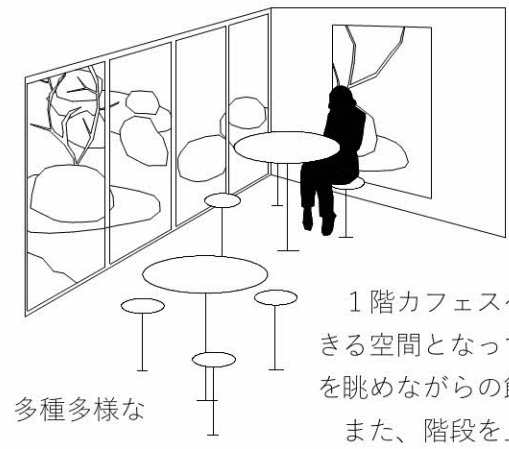
### 味噌の魅力

- 腸内環境を整える**  
味噌には腸内で善玉菌として働く微生物「プロバイオティクス」が含まれており、町内フローラのバランスを保ってくれる。
- 免疫力向上**  
味噌に含まれる豊富なビタミンやミネラルは、免疫力向上に大きく貢献する。
- 「トリプトファン」の摂取**  
味噌には必須アミノ酸である「トリプトファン」が含まれており、心身を安定させストレスを低減させるほかに、睡眠の質を向上させる効果がある。

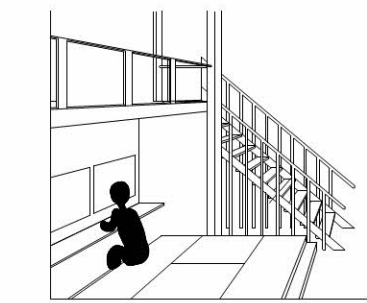
### 「道樽」での過ごし方



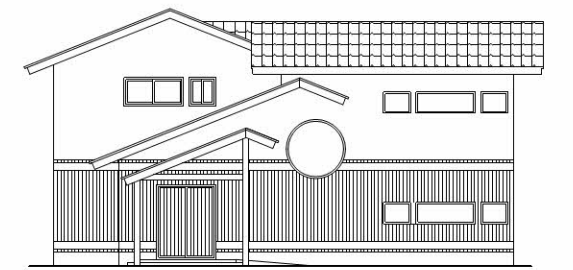
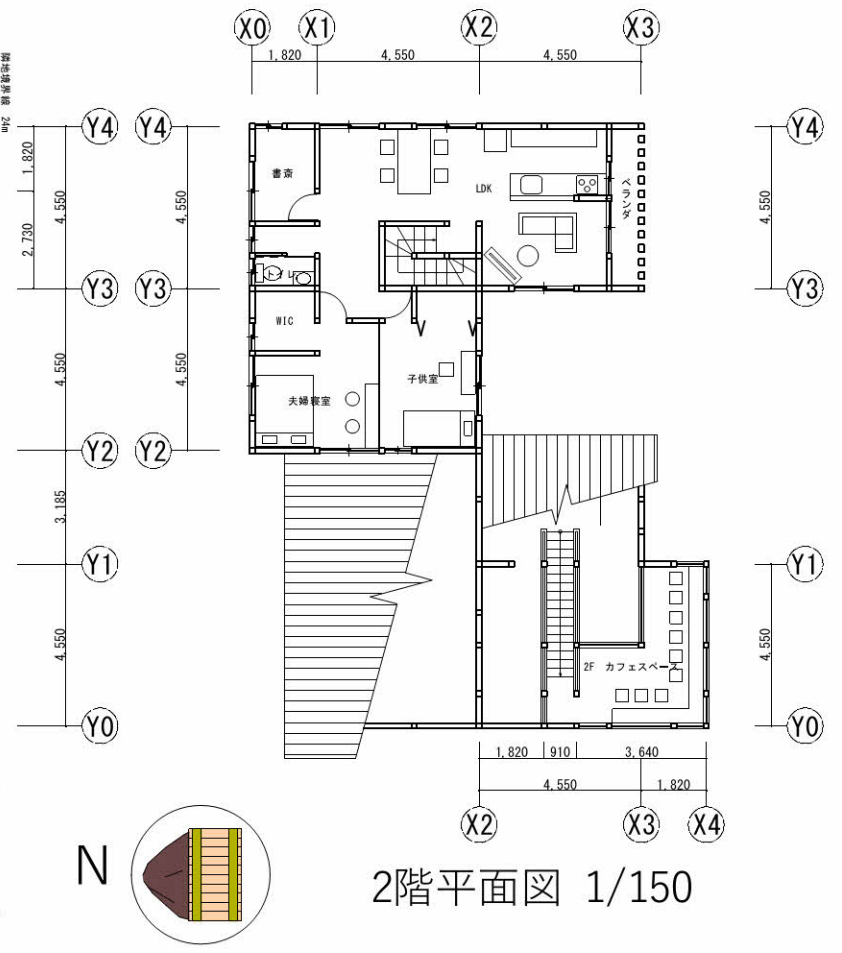
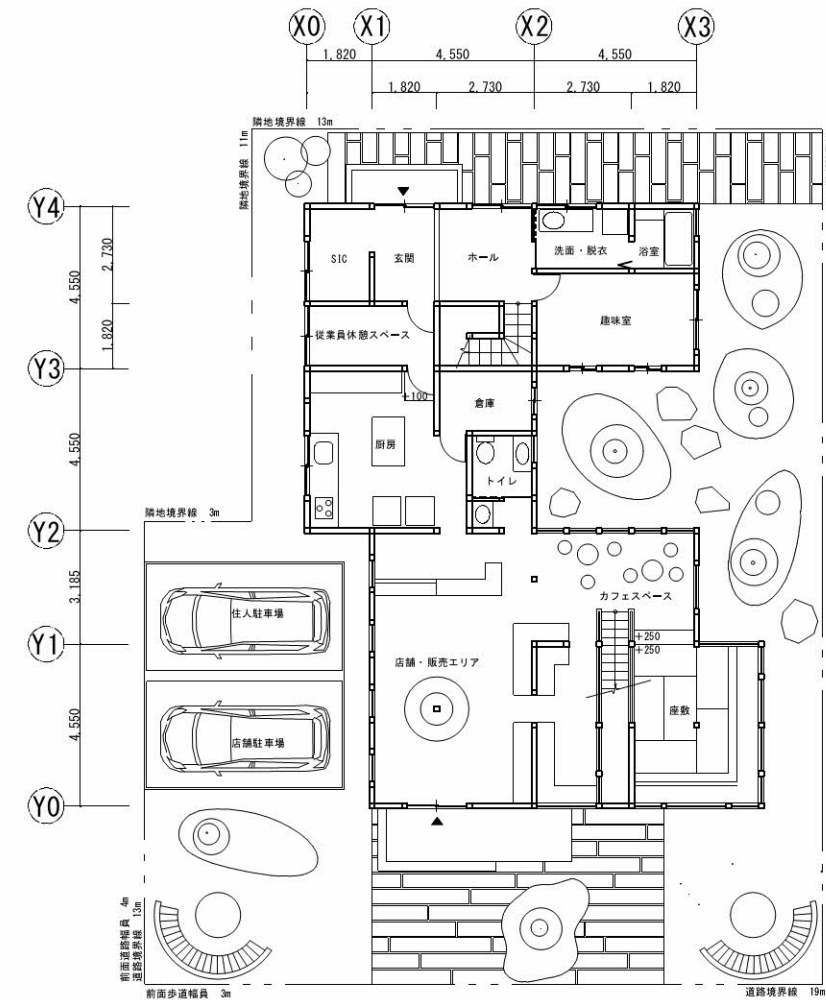
販売スペースでは、店主が日本各地から取り寄せた、多種多様な味噌商品の購入ができる。



店内に入ってすぐの円状の棚の上には、多くの味噌が並んでおり、好きな味噌を選んでみそ汁の飲み比べができる。



1階カフェスペースは、苔庭を眺めながらの飲食ができる空間となっており、座敷部分は畳に座り、道後温泉を眺めながらの飲食ができる空間となっている。また、階段を上った先の2階カフェスペースでは、少し高い位置から道後温泉を眺めることができる。自分の好きな場所で、ゆったりとした時間を楽しんでほしい。





## 設計主旨

近年、スマートフォンに依存する子供が増えています。特に電車の中や病院の待合室などで、親のスマホを使ってゲームをしたり動画を見たりする子どもをよく目にします。この光景に少し寂しさを感じることもあります。そこで、私が好きな「ものづくり」と「手料理」を通じて、子どもたちに新たな楽しみを見つけたいと考え、久万高原町に「新しいトビラ」を設計しました。この建物のコンセプトは、「常に自然を感じられる空間」です。そのため、建物を3つの棟に分け、ウッドデッキでつなぐことで、移動の際には必ず外に出る動線計画としました。さらに、建物内部でも久万高原の豊かな自然を感じられるよう、通常の建築よりも開口部を多く設け、自然光や風を存分に取り入れられる設計としました。外観には、久万高原町で伐採された「杉」を使用し、丸太組工法によるログハウスとすることで、より自然と調和したデザインを実現しています。この体験をきっかけに、家でも親子で一緒にものづくりや手料理を楽しむ時間を増やしてもらえたらと思います。



南立面図 S=1/80

# 新しいトビラ

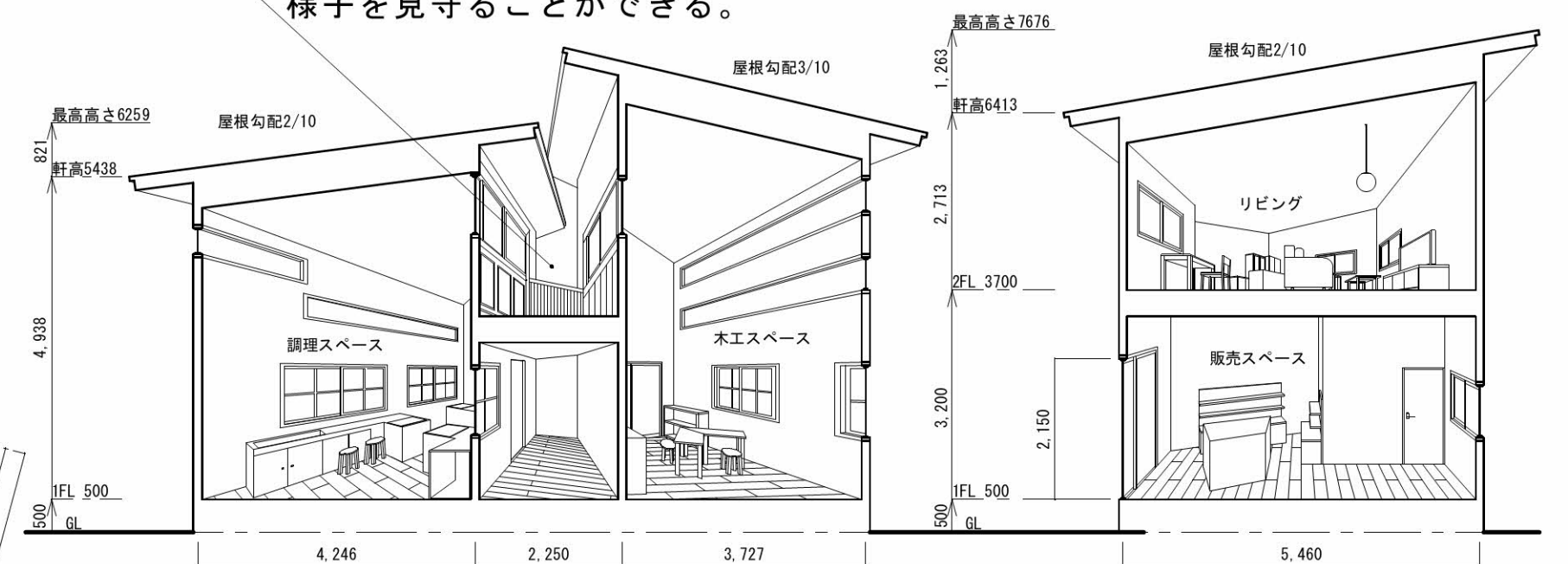
～手作りでわかる新たな楽しみとの出会い～



サンクンガーデン  
子どもたちが作った  
手料理を食べます。

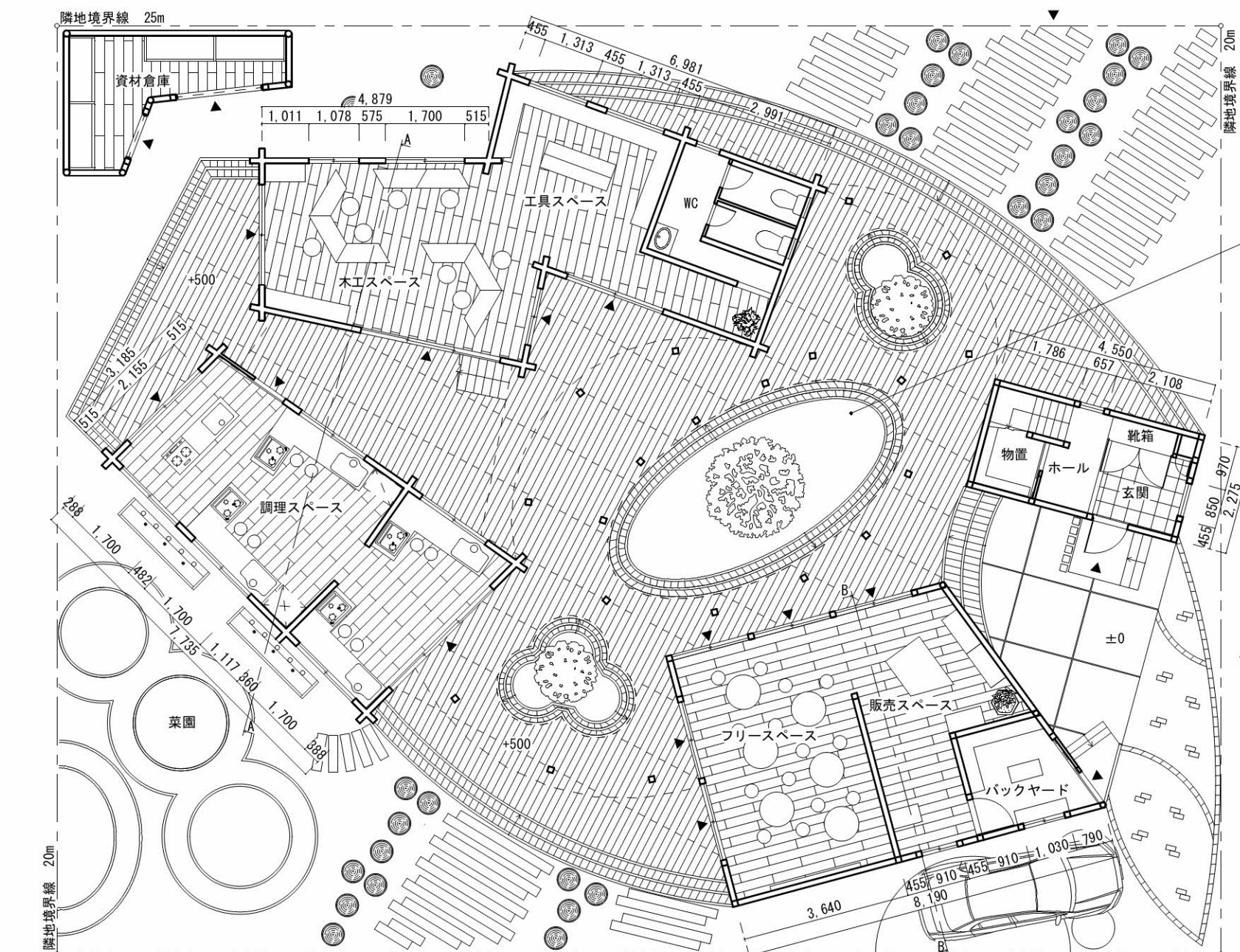
### 観覧バルコニー

親御さんが自由に子どもたちの様子を見守ることができる。

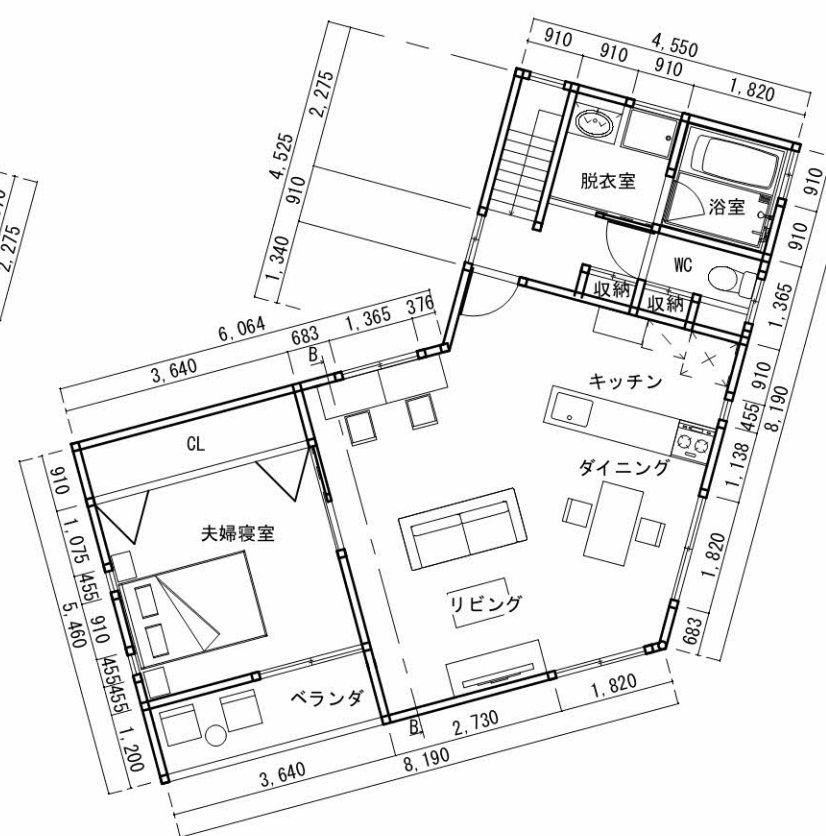


A-A断面透視図 S=1/100

B-B断面透視図 S=1/100



配置図兼一階平面図 S=1/120

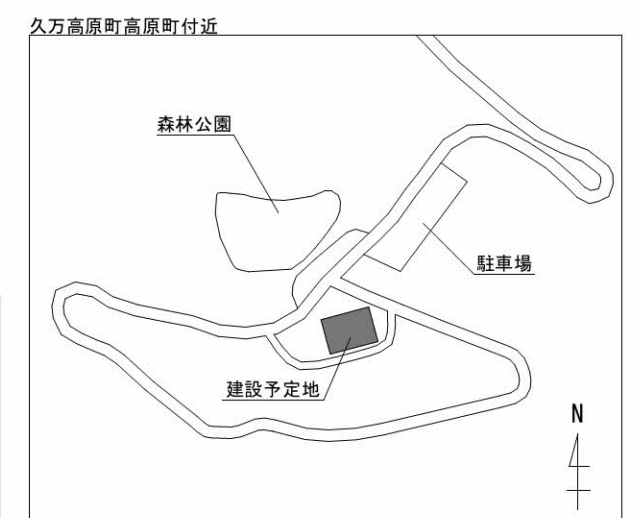


二階平面図 S=1/120

### 面積表

敷地面積	500.00㎡
建築面積	223.44㎡
1階床面積	132.54㎡
2階床面積	67.89㎡
延べ床面積	200.43㎡
建蔽率	44.69%
容積率	40.09%

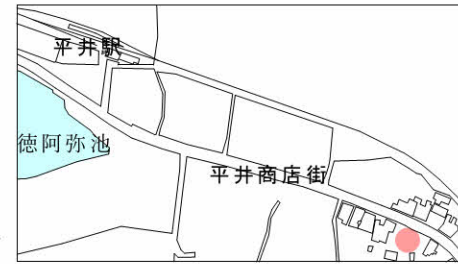
家族構成		担当
夫	50歳	ものづくり
妻	52歳	料理



付近見取り図

# ピザ屋「登り窯」

## ～平井町の2つの歴史を紡ぐ店～



### 計画場所

愛知県松山市平井町にある平井商店街、この土地は敷地の真ん中に水路が走っている。  
昭和11年に長屋が多く建てられており、現在でもいくつか遺されている。

### 家族構成

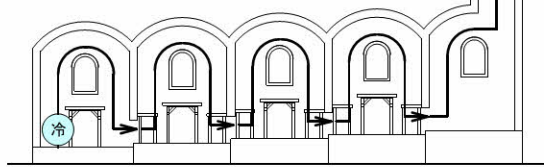


### 設計主旨

地元に残る歴史を紡ぐことは、過去の人々の知恵や経験を受け継ぎ、未来をより充実させるための大切な手段である。  
私の設計した松山市平井町には2つの歴史が遺っている。一つ目は昔、焼物の一大産地であり、窯場が多く散在していたこと。二つ目は、平井商店街の敷地内に水路が走っており、その石垣が未だに住宅の床下に残っていることである。これら2つの歴史をピザ屋「登り窯」で感じてもらう平井町の魅力を広げていきたいと考え、提案した。

### 登り窯とは

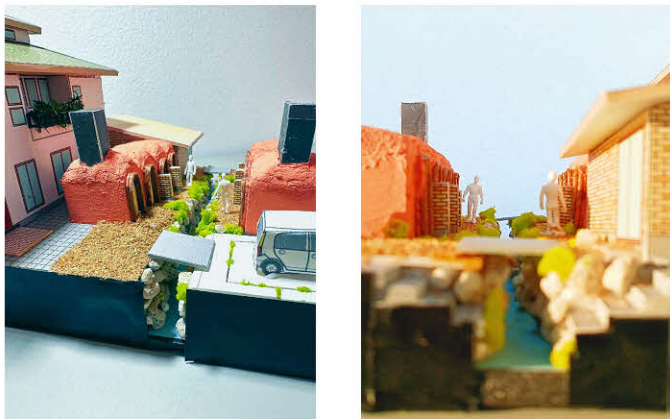
登り窯は、焼物を大量に焼成するために、炉内を各間に仕切り、斜面地形を利用し、重力による燃焼ガスの対流を利用する。今回の提案は、炉内を個室にし、重力換気できるアイデアとした。



B - B断面図 S=1/100

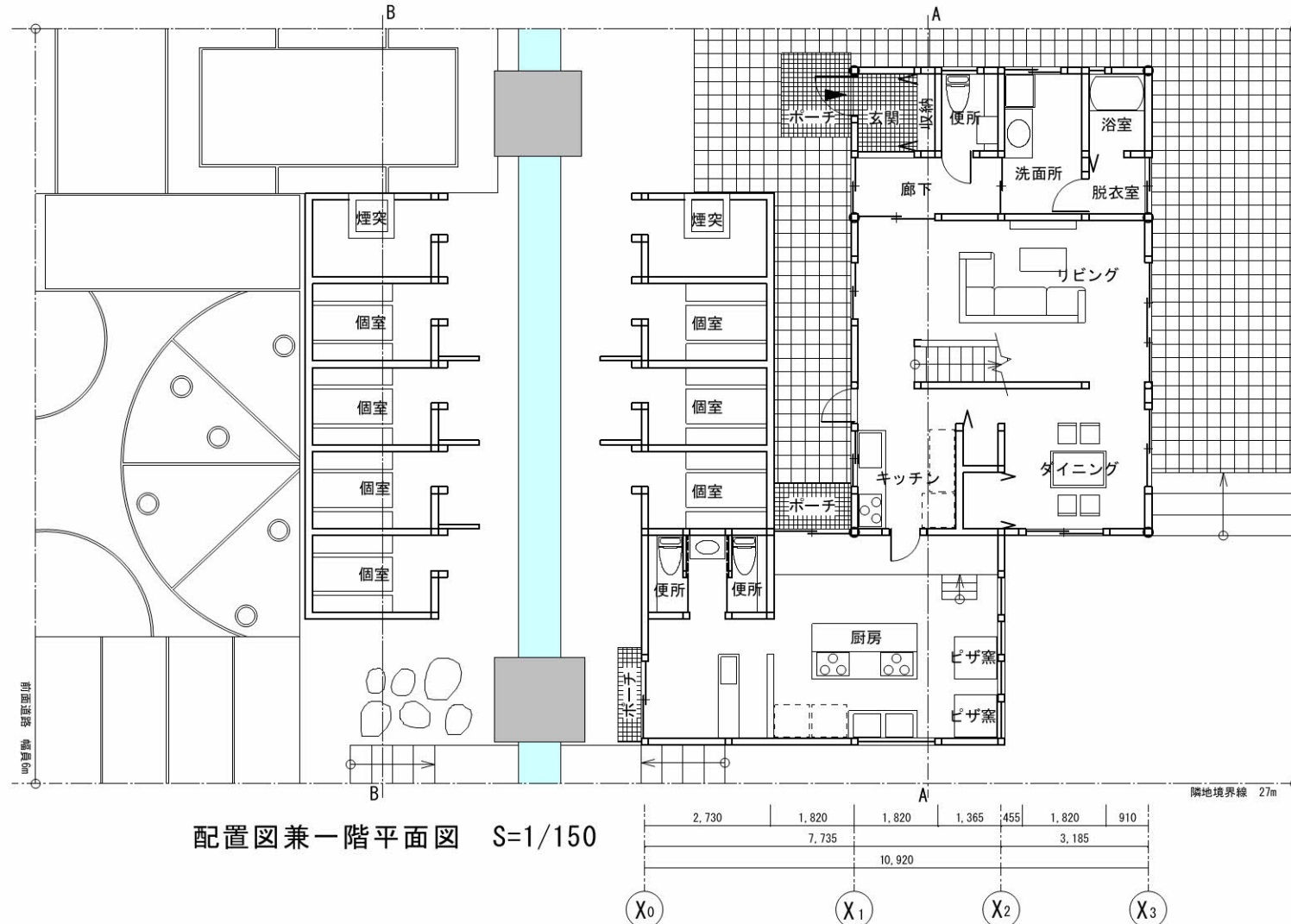
### 敷地と石垣の魅力

この水路は、昭和11年に長屋が建てられたときに造られた。小野川の伏流水で石垣から歴史を、水音から心の安らぎを感じて欲しい。



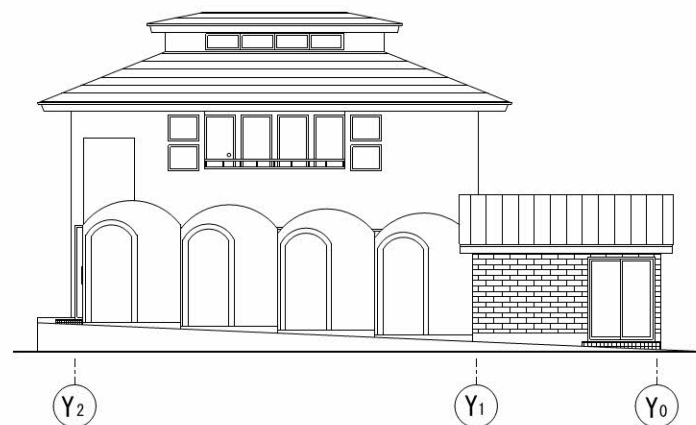
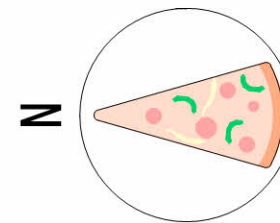
### 水路について

この水路に引かれた小野川の副流水は、この先にある徳阿弥池に集まり稲作の水に使われる。  
写真から水路をまたいで住宅が建っていることがわかる。



### 住宅のパッシブデザイン

住宅は、中央に吹き抜けと越屋根を設けることで、心地よい明るさを住宅内に生み出すとともに、煙突効果により住宅全体を換気する。また、床下は浸水等を考え床高とし、冬はピザ窯の熱を利用した温水式床暖房を採用する。



# Glamorous Scenery 「ブルーライン」

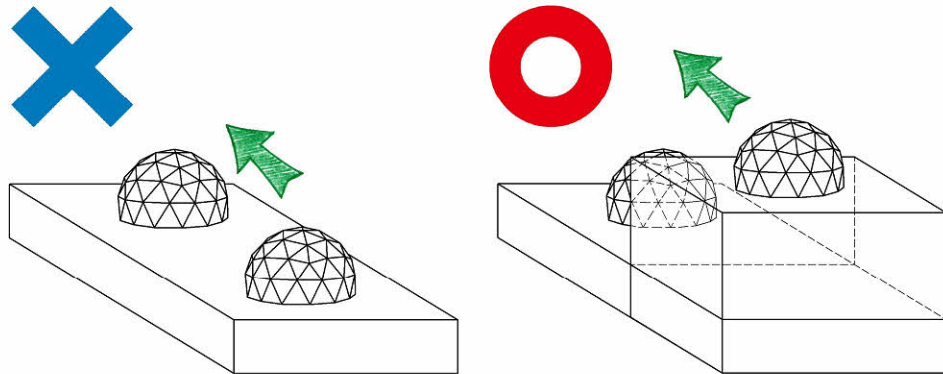
～多島美の中で楽しむキャンプ～

## 🔥 設計主旨

愛媛県の令和5年の観光客総数は増加傾向となっている。これは新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う旅行需要の高まりにより増加したと考えられる。ただ、コロナ流行前の数値にはまだ及ばない。そこで、愛媛の魅力を知ってもらうためにできたのがGlamorous Scenery 「ブルーライン」だ。ここでは、瀬戸内海に広がる芸予諸島と海に映えるしまなみ海道の景色を見ながらグランピングをすることができる。グランピングの特徴としては、キャンプと違い設備は整っていて自分たちで用意するものが少ないため、誰でも簡単に焚き火やバーベキューが体験でき、自然の中でアウトドア気分が満喫できると人気になっている。

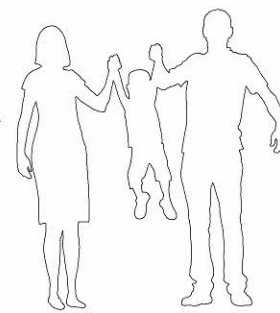
## 🔥 ダイアグラム

高低差の利用(視線)



## 🔥 家族構成

母 (37) サイクリング  
父 (35) キャンプ  
子供 (10) スポーツ

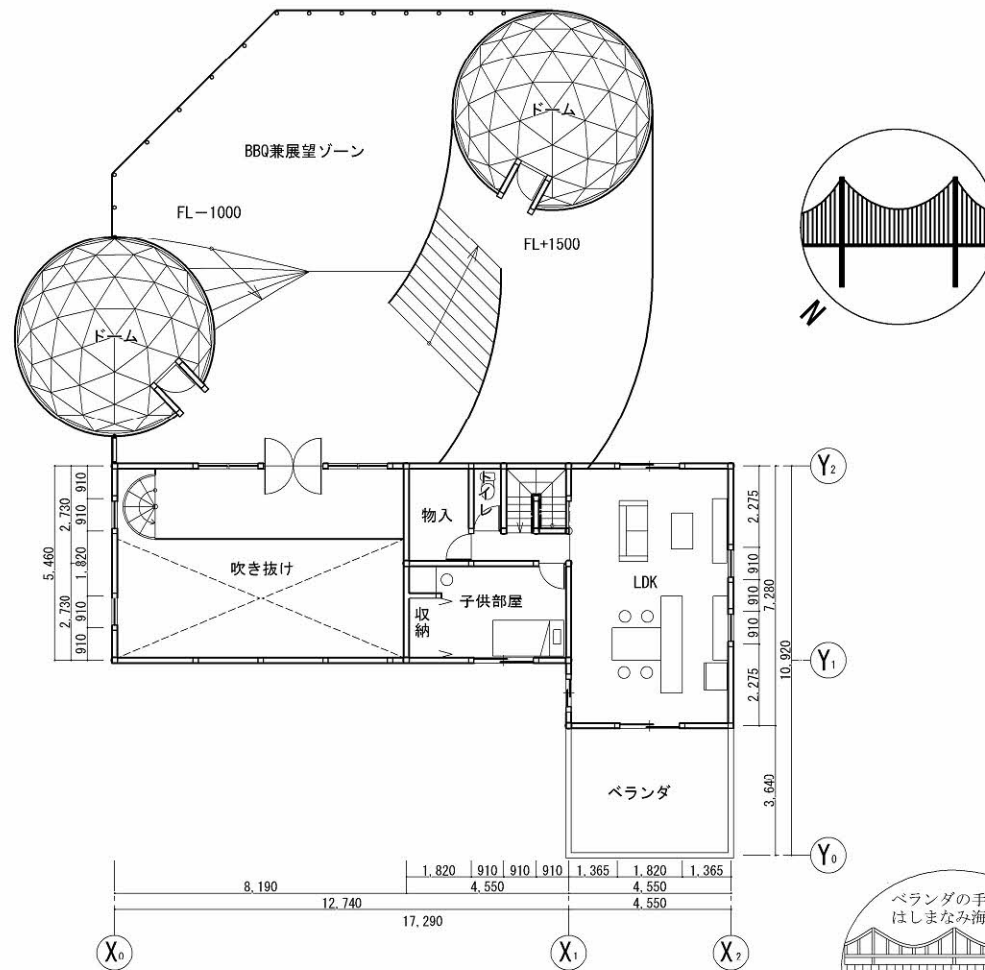
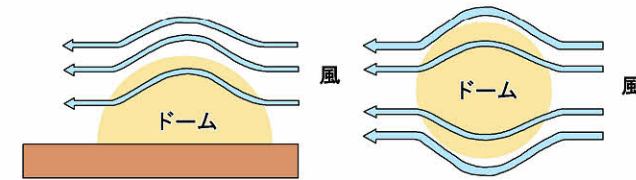


## 🔥 建設予定地

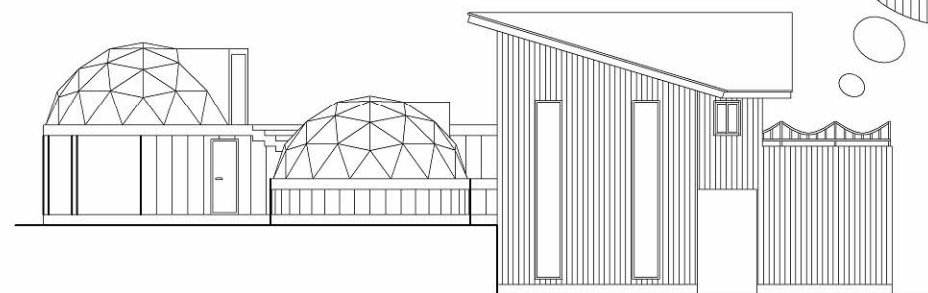


## 🔥 ドームの利点

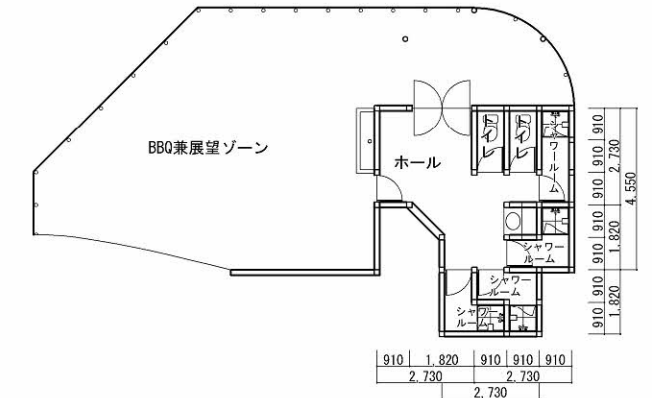
ドームは、三角形(トラス)によって形成されているため、耐震性優れている。また強風にも強く、風をまともに受けにくい構造となっている。ドーム型の強固な構造により、ドームハウスは積雪にも優れた適応力を発揮する。



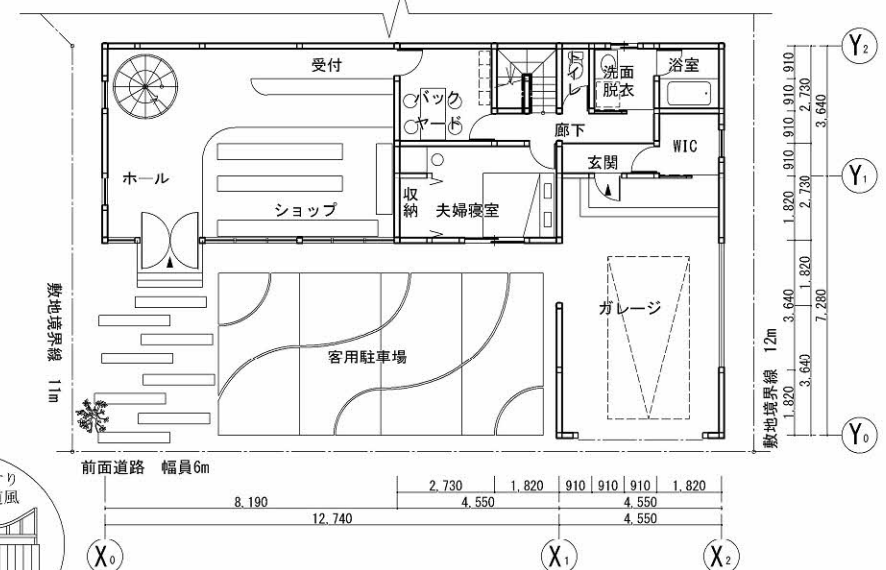
2階平面図 S=1/150



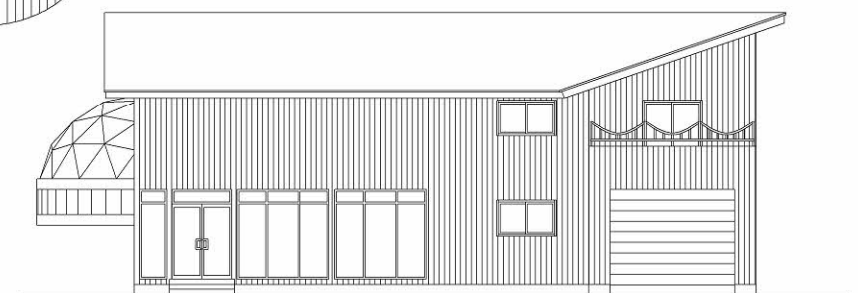
北東立面図 S=1/150



1.5階平面図 S=1/150



配置図兼1階平面図 S=1/150



北西立面図 S=1/150



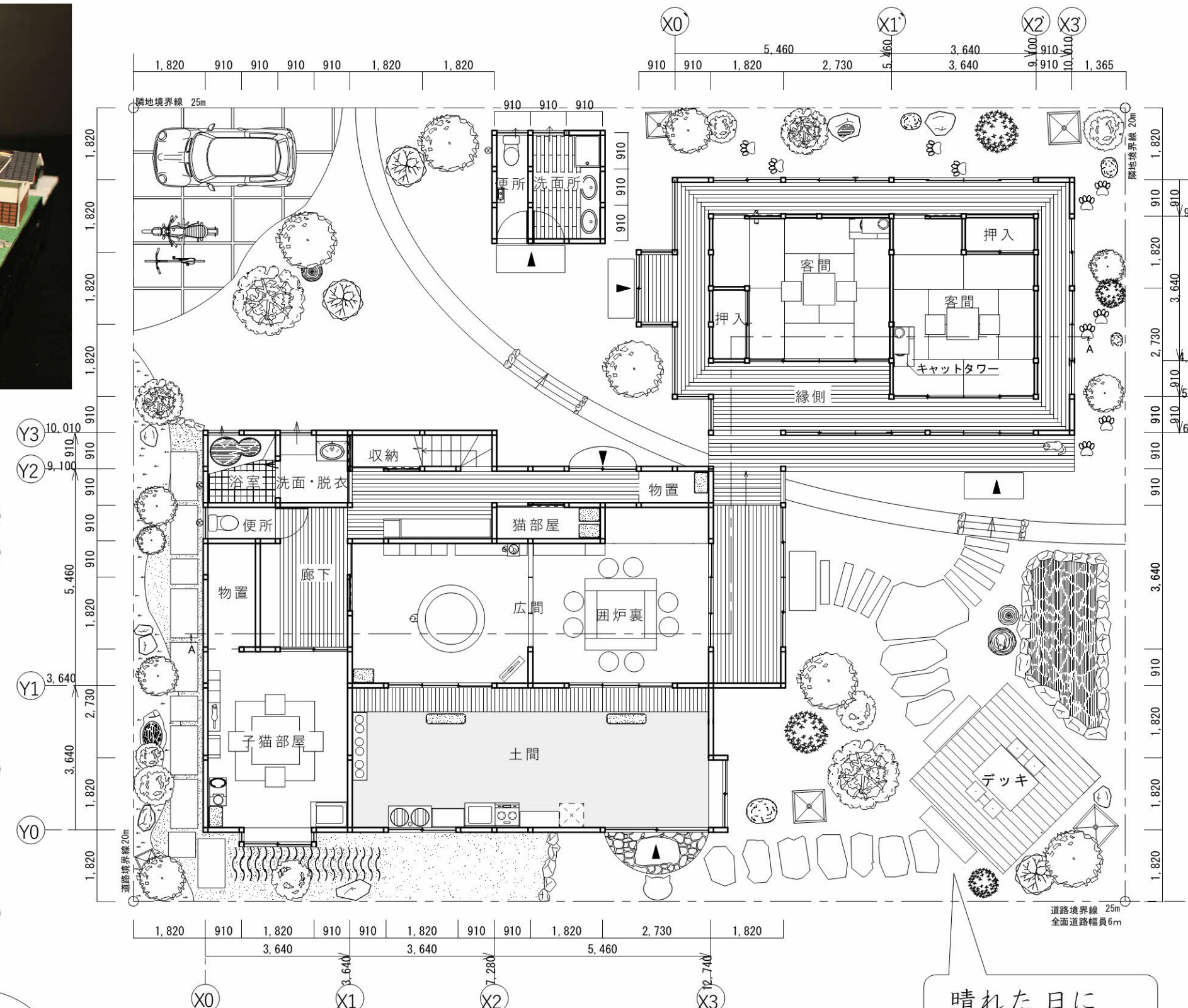
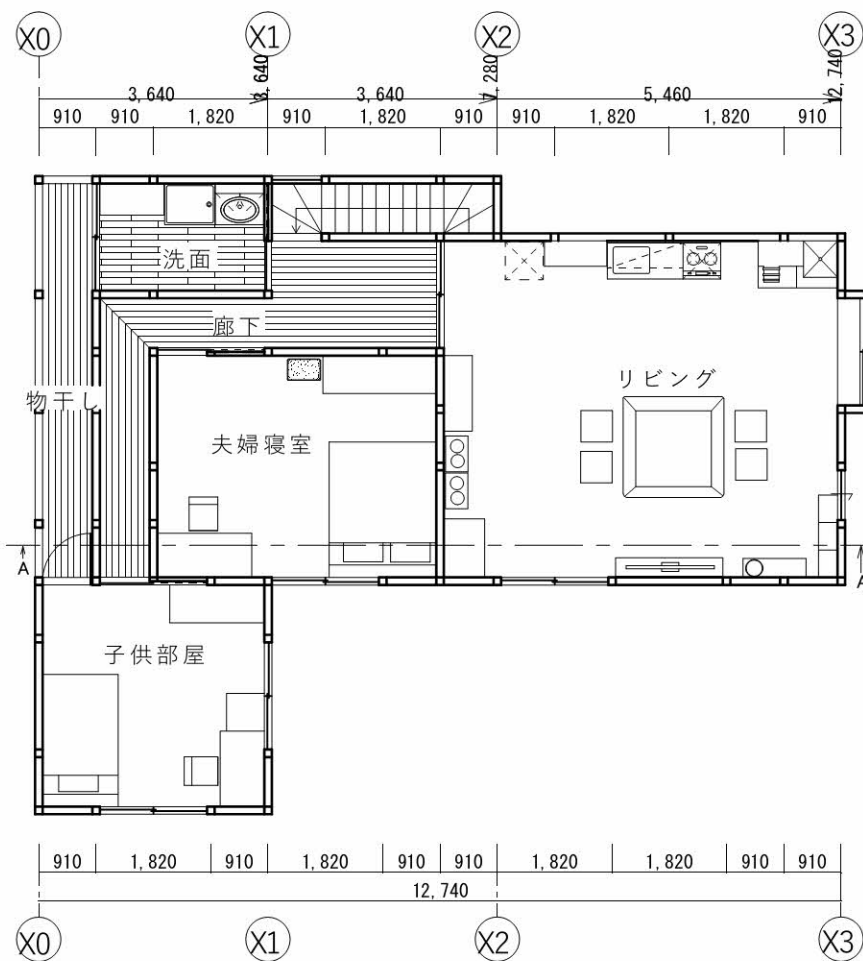
ベランダの手すり  
はしまなみ海道風

# 猫宿『縁』

えにし

## 設計主旨

私は、保護猫と共に過ごせる民宿「縁」を設計しました。この建物は、下灘駅や美しい海、昔ながらの町並みで知られる伊予市双海町に位置しています。双海町は魅力的な場所ですが、近年、野良猫の増加が問題となっています。排泄物による庭の荒れや生活環境への影響が課題となっているほか、野良猫自身も食料不足や事故による命を落とすケースが多いのが現状です。こうした不幸な猫たちを少しでも減らすため、双海町を訪れる観光客と猫が触れ合える場を提供し、新しい家族との「縁」を結ぶ場としてこの民宿を設計しました。民宿「縁」は、地域住民から観光客まで、多くの人が猫と触れ合いながら交流できる空間です。建物には広い土間と広間を設け、猫と人が気軽に集まり楽しめる場としています。さらに、猫専用の部屋や子猫専用の部屋を設けることで、子猫の世話に集中できる環境を提供するとともに、感染症の拡大を防ぐ配慮も行っています。母屋と離れを縁側で繋ぎ、宿泊客と猫が行き来しやすい設計にしています。壁には猫専用の通り道を複数設け、猫が自由にどの部屋にも行き来できるようにし、宿全体で猫との心地よい距離感を意識した空間作りを心がけています。この宿を通じて、猫との「縁」を結んでいただければと願っています。そして、猫たちが新しい家族と出会い、幸せな未来を築ける場所になるよう、この設計をデザインしました。



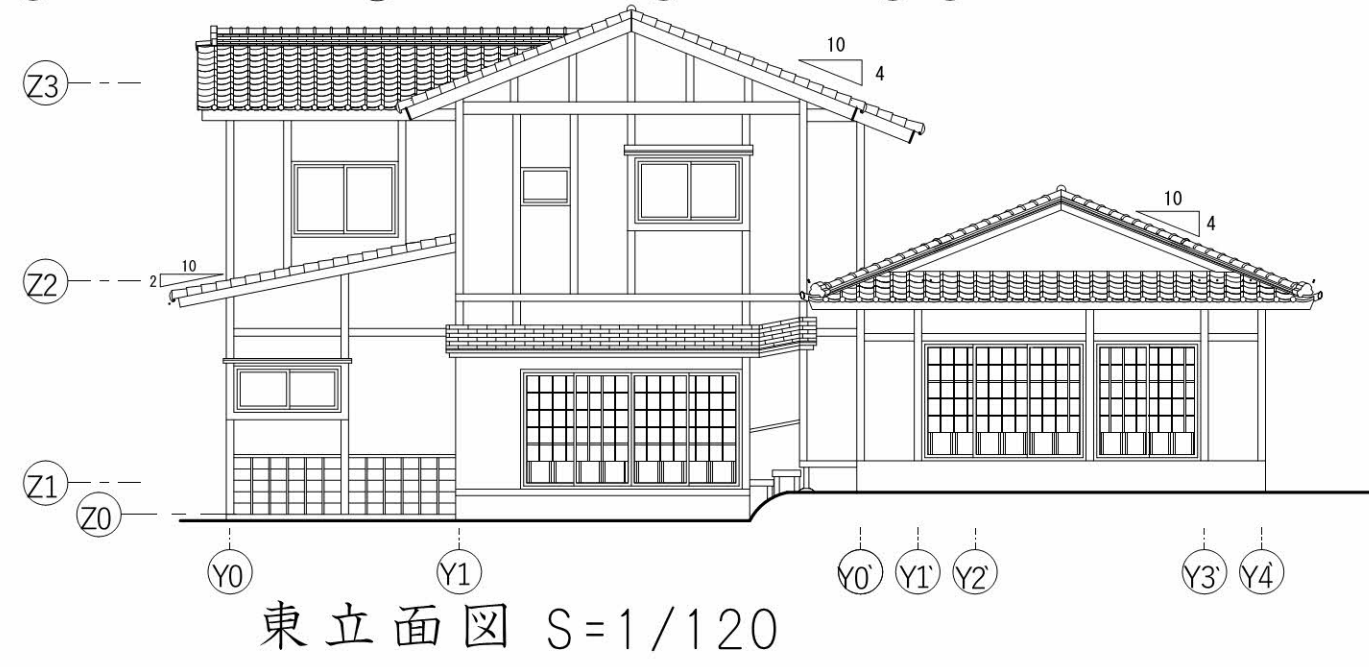
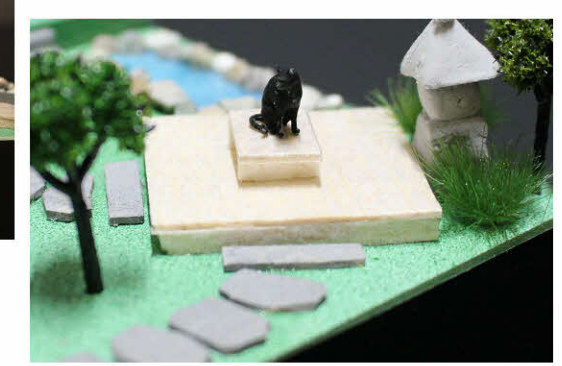
家族構成

父	漁師
母	民宿の経営
娘	高校2年生

面積表

敷地面積	500㎡
一階面積	208.61㎡
二階面積	92.18㎡
建築面積	208.61㎡
延べ面積	300.79㎡
建ぺい率	41.7%
容積率	60.2%

晴れた日に猫と一緒にくつろぐことができます。





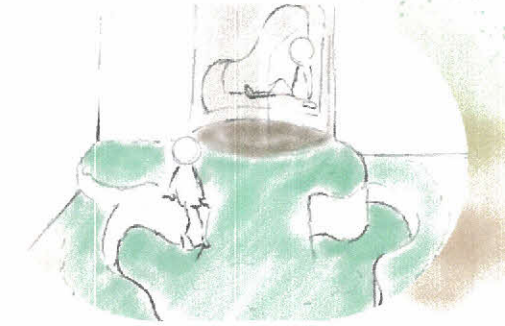
# 小規模託児所 Nest CoCon



## 3つのしかけ

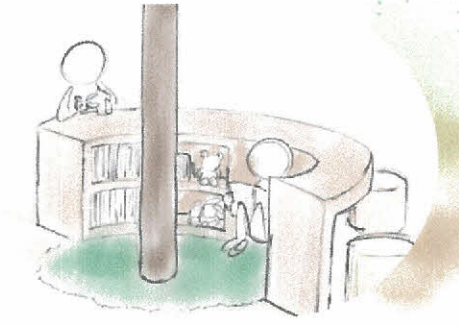
子どもが退屈しないような楽しいしかけを3つ用意した。

### 1. 秘密基地



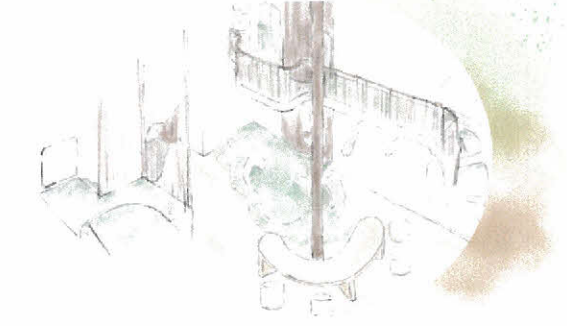
玄関に入ってすぐの場所に樹洞のような小空間を設計した。子どもたちにとっては秘密基地のような空間となる。洞の前には小上がり・小下がりスペースを作り、段差をいろいろな遊びに活用できるようにした。

### 2. えほんスペース



室内の中心部分には丸太の柱を立て、その周りに半円のテーブルを配置した。円の内側は本棚になっており、落ち着きを感じられる円の小さいスペースに座って絵本を読める。円の外側はテーブルになっており食卓や工作用の机としても使える。

### 3. キッズウォーク



壁面周りに玄関上の丸いスペースに繋がる、キャットウォークならぬキッズウォークを設置した。壁には様々な形のカラーガラスをはめ込み、違った形や色の光を楽しむことができる。子どもが転落しないように高めの柵を取り付けた。

## 背景

近年、少子化が問題となっている中で、宇和島市に気軽に子どもを預けられる託児所が少ないように感じる。

幼稚園や保育園では急に子どもを預けたいときに利用しづらい。

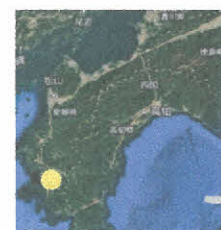
## 提案

そこで親が安心して子どもを預けられる、子どもが楽しむことができる空間を作りたいと思った。この託児所には子どもが楽しめるようなしかけをいくつか設けつつ、子どもの安全を守る設備にも配慮している。

この託児所は元保育士だった母が経営する少人数の託児所である。

## 建設予定地

建設予定地は愛媛県宇和島市の小学校区に位置する、閑静な住宅街。この小規模託児所が宇和島を明るくする。宇和島のキャッチコピーは「ココロまじわうトコロ」。愛媛県宇和島市に関わるさまざまな人たちの心を満たしたいという想いがあふれている。



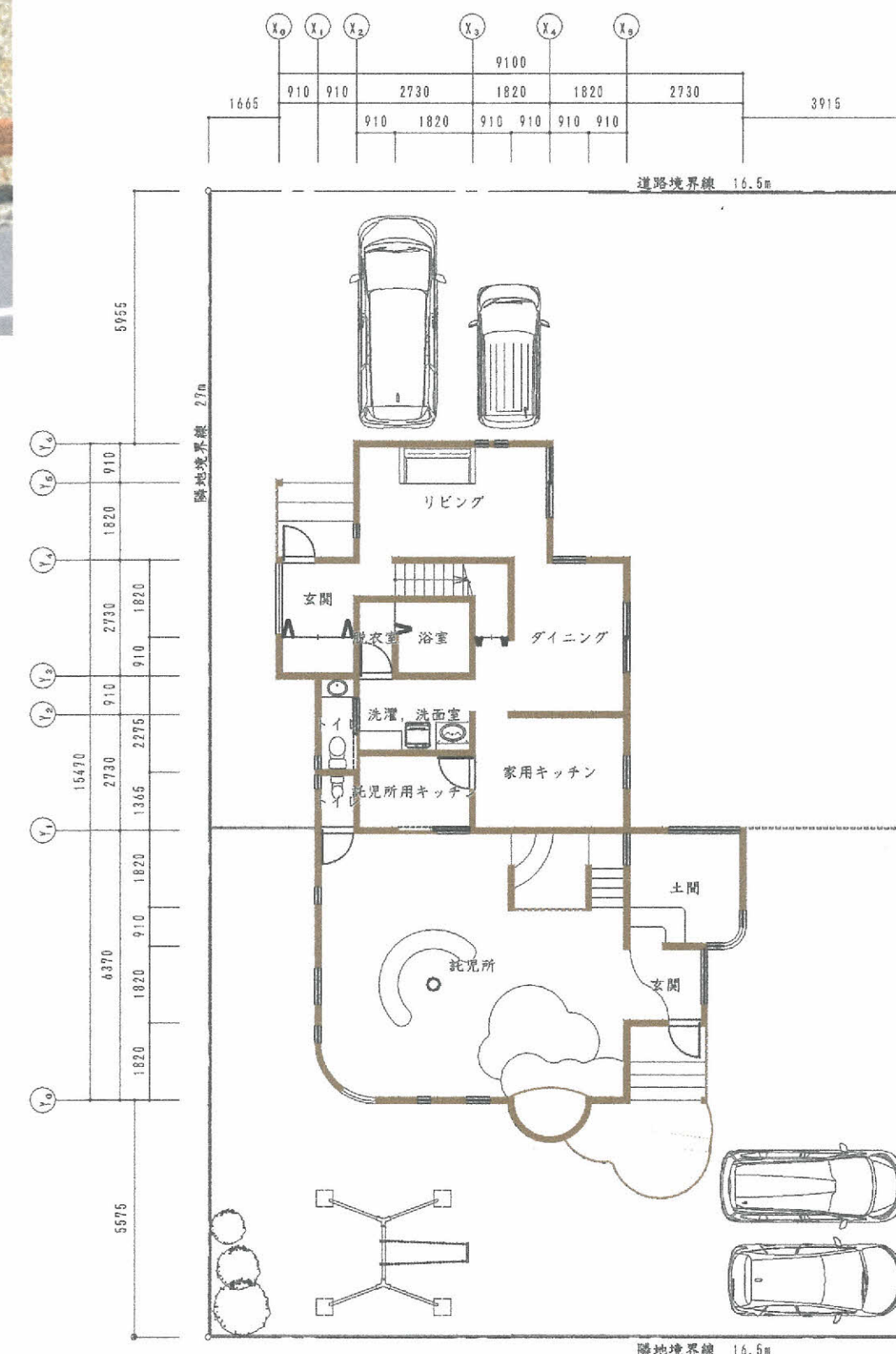
## 家族構成

母：元保育士(34)  
父：営業職(35)  
娘：小学生(7)

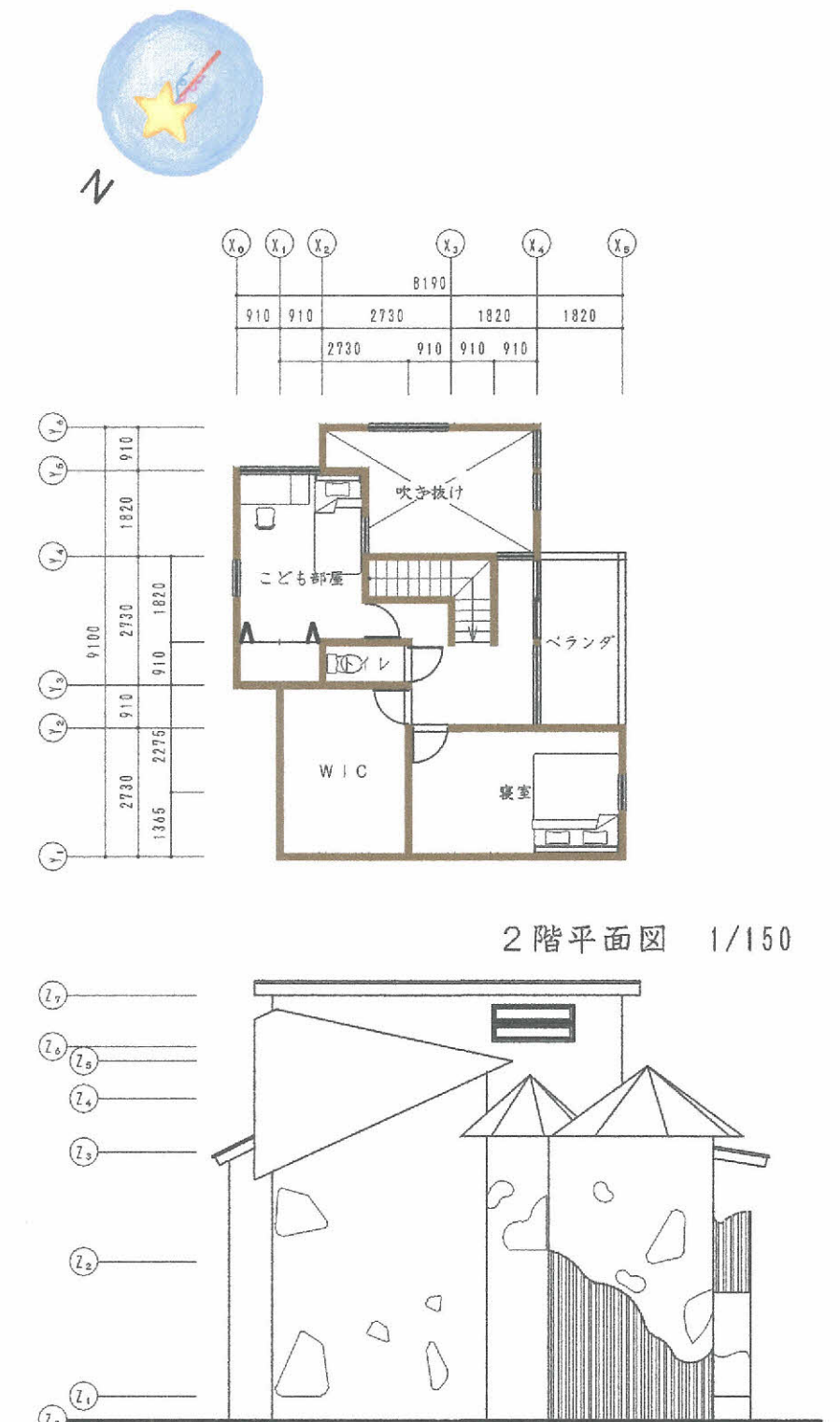


## 面積表

敷地面積	445.5㎡
建築面積	132.02㎡



配置図兼1階平面図 1/150



2階平面図 1/150  
北側立面図 1/150

